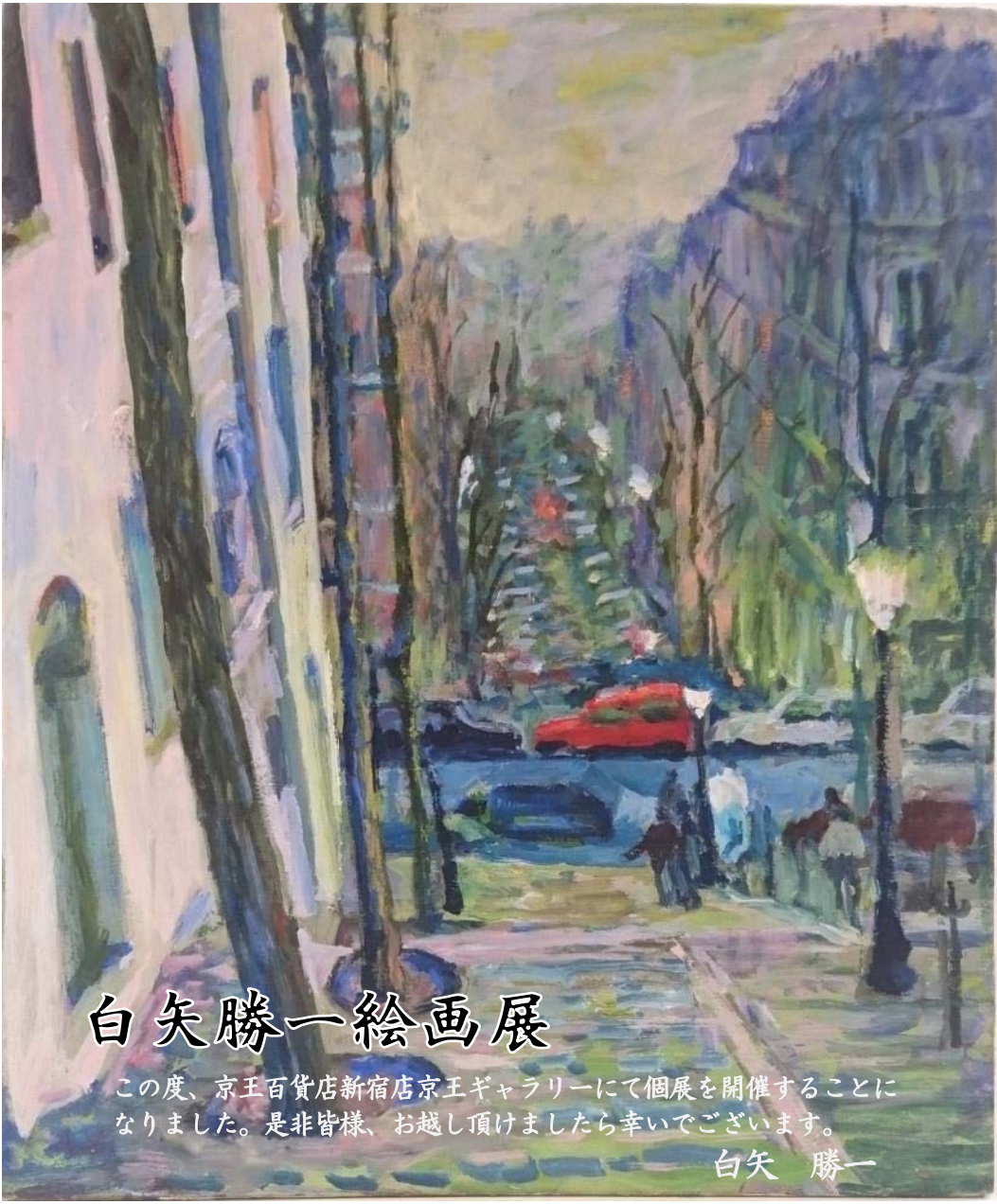


日本医家芸術クラブ邦楽部

第六十二回 邦楽祭

平成二十九年十一月二十三日(木曜祭日)十二時より

於 日本橋三越劇場



白矢勝一絵画展

この度、京王百貨店新宿店京王ギャラリーにて個展を開催することになりました。是非皆様、お越し頂けましたら幸いです。

白矢 勝一

F8「モンマルトル」

会期：2018年4月12日（木）→18日（水）
会場：京王百貨店 新宿店6階 京王ギャラリー
〈最終日は午後4時まで〉



医家芸術 秋季号 目次

61 巻 通巻 632 号 (2017 年度)

◇医家随想

糴

豊泉 清 4

記備談語 - 9 -

佐藤 玄祥 8

座間味の夏

出来 尚史 25

チェーホフを読む (14)

藤倉 一郎 32

「やばい」は困る

鈴木 啓之 34

和紙の事

河鍋 楠美 35

魔性の研究成果

八潮 弘三郎 36

肥満の背景とは

鹿兒島 武志 55

熱海の花火大会と

病院勤務あれこれ

浜名 新 57

サイパン戦跡巡り

美濃部 幸恵

美濃部 欣平 61

家康が造った駿府の城下町

山崎 嘉弘 72

医芸俳壇 82

医芸柳壇 82

医芸歌壇 83

◇ほん

『蠹 虫』

林 宏匡 著 84

『中・近世の傑人と医療』

吉元 昭治 著 84

野口眞利絵画展

白矢 勝一 85

透視像 86

編集後記 86

表紙の言葉 3

原稿募集のお知らせ 60

表紙の言葉

『ナデシコ』 京都市 村上 泰

九月のある晴れた日、久方ぶりにカメラを方に散歩に出かけた。嵯峨野へ向かう途中、稲作農家の庭先で色鮮やかに群生するナデシコをみつけて撮影したもの一枚である。色も形も異なる各種のナデシコが競い合うように咲き誇っているのが面白く、それらを平等に映し出すのに苦労した。

(第 46 回医家写真展出品)

医家随想



糴

豊泉 清

「海海海海海」をどう読むかというクイズを先ずご披露してみたい。海女を「あま」、海豚を「いるか」、海胆を「うに」、海老を「えび」と読む。あまり馴染みがないが、海藻の一種で海髪（おこ）と読む宛字読みがある。五通りの宛字読みから、海海海海海は「あいいうえお」と読める。平安時代の書物に載っているクイズだそうである。平安貴族は漢字を遊びのネタとして大いに楽しんでいたようである。

私も若い頃から漢字の読み方に興味を抱いていた。小学校時代に国語の授業で七夕や土産という宛字読みを教わり、また和歌や俳句に登場する東風（こち）や時雨（しぐれ）や五月雨（さみだれ）という宛字読みも教わった。今でも新聞や週刊誌の漢字クイズを見ると、片端から挑戦してみたくなる。そこで平安時代の謎々に触発されて、漢字の読み方に関する考察を試みてみた。

ある週刊誌で次の宛字をどう読むかというクイズを目にしたことがある。

灰汁（あく）鳥賊（いか）独活（うど）

蚊帳（かや）蜘蛛（くも）独楽（こま）
羊歯（しだ）蕎麦（そば）胼胝（たこ）
殺陣（たて）山車（だし）足袋（たび）
朱鷺（とき）熨斗（のし）海苔（のり）
河豚（ふぐ）反吐（へど）反故（ほご）
雲脂（ふけ）木瓜（ぼけ）肉刺（まめ）
巫女（みこ）猛者（もさ）自棄（やけ）

また別の週刊誌で似たようなクイズを目にした。

欠伸（あくび）胡座（あぐら）
海驢（あしか）痘痕（あばた）
汗疹（あせも）团扇（うちわ）
女将（おかみ）飛白（かすり）
水鶏（くいな）慈姑（くわい）
竹刀（しな）老舗（しにせ）
台詞（せりふ）木賊（とくさ）
氷柱（つらら）蜥蜴（とかげ）
海鼠（なまこ）雪崩（なだれ）
盗汗（おあせ）祝詞（のりと）
狼煙（のろし）糸瓜（へちま）
黒子（ほくろ）蚯蚓（みみず）

百足（むかで）土竜（もぐら）
山葵（わさび）草鞋（わらじ）

学生時代に暗記に熱中したお陰で何とか読めた。前掲の週刊誌のクイズに触発されて、自分でも宛字読みを探してみた。先ず仮名四文字で読む宛字を挙げてみよう。

四阿（あずまや）海豹（あざらし）
斑鳩（いかるが）漁火（いさりび）
刺青（いれずみ）花魁（おいらん）
陽炎（かげろう）帷子（かたびら）
蟋谷（こめかみ）防人（さきもり）
東雲（しのめ）雀斑（そばかす）
黄昏（たそがれ）松明（たいまつ）
徒然（つれづれ）抽斗（ひきだし）
鬼灯（ほおずき）雪洞（ぼんぼり）
鳩尾（みぞおち）公魚（わかさぎ）

蜥蜴（とかげ）や蚯蚓（みみず）は虫偏の漢字を二つ書く。蟋蟀（こおろぎ）、螳螂（かまきり）、蝙蝠（こうも

り）、蛞蝓（なめくじ）、蛭蛉（かげろう）は虫偏を二つ書いて、仮名四文字で読む。因みにトンボを意味する蜻蛉にも「かげろう」という読みがある。パソコンに「かげろう」と入力すると、蛭蛉、蜻蛉、陽炎の三語に変換出来る。

次に漢字も仮名も三文字の宛字を探してみた。

秋刀魚（さんま）案山子（かかし）
十八番（おはこ）万年青（おもと）
零余子（むかご）

次に漢字三文字、仮名四文字の宛字を探してみた。

紫陽花（あじさい）十六夜（いざよい）
無花果（いちじく）車前草（おおばこ）
啄木鳥（きつつき）仙人掌（サボテン）
注連縄（しめなわ）蒲公英（タンポポ）
向日葵（ひまわり）流鏑馬（やぶさめ）

次に仮名五文字で読む宛字を集め

てみた。

許嫁（いいなすけ）杜若（かきつばた）
蝸牛（かたつむり）忍冬（すいかずら）
幫間（たいこもち）心太（ところてん）
宿醉（ふつかよい）

漢字三文字を仮名五文字で読む信天翁（あほうどり）、女郎花（おみなえし）、含羞草（おじぎそう）、百日紅（さるすべり）という宛字もある。

玉蜀黍（とうもろこし）と勿忘草（わすれなぐさ）は仮名六文字で読み、凌霄花（のうぜんかずら）は仮名七文字で読む植物の名前である。私が調べた限りでは仮名七文字が宛字読みの最長だった。

盟神探湯を「くかたち」と読む。熱湯に手を入れても、正直者は火傷をしないが、嘘つきは火傷をするという古代の裁判だそうである。私が調べた限りでは、漢字四文字で書く唯

一の宛字表記である。

昔は麦酒(ビール)、燐寸(マッチ)、瓦斯(ガス)、珈琲(コーヒー)、曹達(ソーダ)、乾酪(チーズ)、沃度丁機(ヨードチンキ)、酒精(アルコール)、基督(キリスト)など、外国語を片端から漢字で表記する風習があった。若い頃に一通り習ったから今でも何とか読める。

英吉利(イギリス)、仏蘭西(フランス)、西班牙(スペイン)、土耳其(トルコ)、墨西哥(メキシコ)などの国名や、紐育(ニューヨーク)、華盛頓(ワシントン)、桑港(サンフランシスコ)、羅馬(ローマ)、伯林(ベルリン)、倫敦(ロンドン)、維納(ウィーン)、巴里(パリ)などの都市名の漢字表記もあった。やはり宛字読みのグループに分類できると思われる。

アメリカにHOLLYWOOD(ハリウッド)という都市がある。HOLLYはクリスマス飾りに用いられる柵(ひいらぎ)という植物だから、ハリウッドは字面から「柵の林」と解釈出来る。HOLLYと一字違いで、神聖なという意味のHOLYという形容詞がある。ある日本人の英文学者がHOLLYとHOLYを見間違えて、ハリウッド(柵の林)を神聖な林、つまり「聖林」と誤訳したという逸話がある。昔はハリウッドと読ませる「聖林」という誤訳の宛字表記が堂々と罷り通っており、私も実際に目にすることがある。今の若い世代には馴染みのない話題と思われる。英国のケンブリッジという都市を昔は「劍橋」と書いていた。劍が「ケン」、橋が「ブリッジ」という遊び半分のような宛字である。

また別の週刊誌で次のような漢字クイズを見た。

A ∴ 通夜 風呂 音頭 銅鑼 法螺
愛想
B ∴ 詩歌 富貴 図体 披露 素麵
天保

A・Bそれぞれのグループの漢字の読み方の特徴を指摘せよという問題である。

A群は通(つう)、風(ふう)、頭(とう)、銅(どう)、法(ほう)、想(そう)と原則的に伸ばして読む漢字を、通夜(つや)、風呂(ふろ)、音頭(おんど)、銅鑼(どうら)、法螺(ほら)、愛想(あいそ)のように縮めて一字で読む。

B群は詩(し)、富(ふ)、図(ず)、露(ろ)、素(そ)、保(ほ)と原則的に仮名一字で読む漢字を、詩歌(しか)、富貴(ふうき)、図体(ずうたい)、披露(ひろう)、素麵(そうめん)、江戸時代の年号の天保(てんぽう)のように、例外的に伸ばして仮名二文字で読む。

またある週刊誌で「次の漢字を仮名三文字で読め」というクイズを見た。

証(あかし)主(あるじ)類(たぐい)番(つがい)件(くだり)齡(よわい)輩(やから)要(かなめ)台(うてな)僕(しもべ)項(うなじ)童(わらべ)褥(しとね)鑑(かがみ)眼(まなこ)厨(くりや)框(かまち)骸(むくろ)甕(いらか)闕(しきい)禿(かむろ)腓(こむら)蓮(はちす)腕(かいな)類(るい)、番(ばん)、齡(れい)などの音読みは簡単だが、類(たぐい)、番(つがい)、齡(よわい)などの訓読みには少々手こずった。闕値(いきち)の闕に「しきい」という訓読みがあり、禿(はげ)と読みたくなる漢字に「かむろ」という訓読みもある。腓腹筋の痙攣を俗に「こむらがえり」と呼ぶが、腓腹筋の腓を単独で「いむら」と読む。蓮(はす)や腕(う

で)や雉(きじ)に「はちす」や「かいな」や「きぎす」という仮名三文字の訓読みもある。

週刊誌のクイズに触発されて、仮名四文字で読む漢字を自分で探してみた。

羹(あつもの)餞(はなむけ)酣(たけなわ)魁(さきがけ)英(はなぶさ)柵(しがらみ)眦(まなじり)踝(くるぶし)屍(しかばね)邪(よこしま)蛭(ひぐらし)獺(かわうそ)鬘(たてがみ)蹊(みずかき)篁(たかむら)理(ことわり)兵(つわもの)臙(ひかがみ)

百人一首の小野篁の名前を篁(たかむら)と読む。平家物語の冒頭の「盛者必衰の理をあらわす」の理を「ことわり」と読ませ、芭蕉の「夏草や兵どもが夢の跡」の兵を「つわもの」と読ませている。臙(ひかがみ)は膝

の後ろの窪み、つまり膝窩部を指す和語である。

次に仮名五文字で読む漢字を挙げてみよう。

掌(たなごころ)政(まつりごと)勅(みことのり)釉(うわぐすり)鞆(なめしがわ)志(こころざし)臺(ひきがえる)蛸(はりねずみ)鰐(うきぶくろ)裘(かわごころも)麁(みなごろし)

例数はぐっと少なくなる。鞆(なめしがわ)は「柔らかい革」と分解できるから理解し易い。鰐(うきぶくろ)は魚の臓器である。蛸(はりねずみ)は四足動物だが、何故か虫偏を書く。求と衣を組み合わせた裘(かわごころも)や、鹿と金と組み合わせた麁(みなごろし)という漢字を、本稿のネタ集めをしながら初めて知った。大和言葉だけに限れば五文字読みが最長である。

昔は西欧の度量衡の単位を意味する吋(インチ)、呎(フィート)、碼(ヤード)、哩(マイル)、噸(トン)、磅(ポンド)、瓦(グラム)などの漢字表記があった。籽(キロメートル)や耗(ミリメートル)と仮名六文字で読む漢字も教わった。

表題の糧を「センチメートル」と読む。私が調べた限りでは仮名七文字読みの糧(センチメートル)が最長だった。表題の解説が最終段落になってしまった。悪しからず。

記備談語―9―(29・04～29・07)

真夜中のギター

佐藤 玄祥

長野市に疎開したのが中学2年の3学期、快く受け入れてくれたのが

長野市立中学。疎開第2号だったが、素晴らしい吹奏楽部で一際見事な演奏をしていたのが、同級生の河村今朝利君であった。彼は陸軍音楽隊の演奏を聞き感動、受験を陸軍戸山学校音楽隊(当時)に絞ったが、終戦で諦め早大に進学するも、本格的に音楽の道を目指し、武蔵野音大に学び、ジャズ界に転身、その後日本を代表するモダンジャズ演奏者としてランクイン(アルトサクソフーズ奏者)、コロンビアレコード専属作曲家となった。昭和48年8月、日本コロムビアからの表題の一枚のレコードが発売された(歌手「千賀かほる」作曲「河村利夫」)。簡潔美の極みのような曲調は中学3年の音楽教科書にも収載され、歌を彩る伴奏のストリングスの響は、歌謡史上屈指の美しさといわれ、作曲界の重鎮・團伊玖磨氏が絶賛して止まなかったと言われた。レコード大賞新人賞・第2回古賀賞を

受賞。今なお、この曲の素晴らしさはナツメロの古典として、大切に歌っている。「千賀かほるさん」と共に「河村利夫さん」を讃えたい。

(29・04)

ウォーキングの効果

東京都健康長寿医療センターの青柳幸利博士が15年間に亘って5000人を対象に「一日8000歩のウォーキング(活動のトータル数も含む)」中にインターバル速度(中強度の歩行20分)を入れることで、高齢者の有効健康指標と結論付けられた。

身長×^{0.45}が歩幅の目安(10歩の距離の1/10がその人の平均値)である。歩行速度と生存率(29・01)にも触れたが、年齢を増す毎に血管の修復率が低下し、動脈硬化が進んでいる人は、激しい運動は突然死の危険性が増すので、この点ウォーキ

ングはリスクが少なく誰でも気軽に実施できる楽な運動である。

より効果的な運動タイムは1日の体温上昇のピークになる夕方、常に体温を上昇させることで、代謝を活性化出来る。ウォーキングの後で入浴を…と銭湯1010雑誌の宣伝も頷ける。
(29・04)

死亡保険料値下げ

厚生労働省によると、2015年の日本人の平均寿命は、男性80・79歳、女性87・05歳となり、2007年と比べ、1歳以上の伸び。そこで、生命保険各社は2018年4月以降終身死亡保険や定期死亡保険などの保険料を値下げする。

保険料の基準は、寿命統計「標準生命表」※によって算定し、2007年より11年振りに改定することに伴う措置である。※「男女別、年齢毎の死亡率や平均寿命」

契約期限内の死亡数が減ると、保険会社は支払う保険金が少なくなり、死亡保障の保険料は値下げになる。

長寿化の反映の結果で喜ばしいことだが、一方終身医療保険は、長生きすると支払保険金が増すため、値上げが必要になる。

契約者にとつては保険に入りやすくなる。一方保険会社にとつては減収となるけれど。
(29・04)

付度

最近、付度(そんたく)と言う活字がメディアで飛び交っている。

そもそも付度とは「人の心を推し量る」事である。また、阿る(おもねる)「人の氣に入るように振る舞う」、諂う(へつらう)も「お世辞を言う」「追従(ついしょう)する」そして「おもねる」とも辞書にある。つまり、付度は上司に氣に入られるように、暗黙の上で阿ったり、諂ったりする行

為である。

国会の論議の中に、官僚が「良かれ」と国の財産や認可を勝手に処理している様が正に付度に値する。

「対価」を繕くと他人に財産、労力などを提供し報酬として受け取る財産上の利益とある。つまり、付度は対価を期待しない事で、周囲の状況から勝手に実施した行為とも見られる。そこには権力に対する暗黙の追従が感じられる。

「愛(う)い奴よノウ」悪代官のセリフが氣になる。
(29・04)

長寿県の訃報記事

彼岸の中日、墓参に帰省した。東京でも読める「信濃毎日新聞」3月20日の朝刊を見たら定期的に載るのか、県内各地の訃報が一面分掲載されていた。東京では有名人しか載らないが、市井の方の氏名・年齢記載の地域サービスだ。試しに数えてみ

たら、44名中なんと、100歳代2名・90歳代18名・80歳代19名・70歳代3名・60歳代2名、80歳以上は39/44、実に88.7%が高齢者であった。たまたまなのか調べてみたが、やはり長寿県らしく、おめでたい程天寿の高みに平均値がある。

医学的統計ではないので死因の記載はないし、長患いかPPKの実践かは不明だが、県民意識の高さは、こゝと寿命に対してはPPK（ピンピンコロリ）運動の結果と理解出来る事実ではあった。長寿ⅡおめでたV悲しみの計報なのだ。（29・04）

花に教わる 神への柔順

尊敬するクリスチャンの富吉夫人が亡くなり、花の詩を残されていた。闘病の痛み、苦しみを花によって、神への祈りに救われた遺作を記したい。

窓越しに咲いている さざんかの

紅／あまた咲く中に 一つだけ私の心をひく／なぜ こんなに私をひきつける／紅の色の なんと鮮やかなこと／その姿の なんと可憐なこと／だれも褒めるわけでもないのに／他人の目を気にせず無欲に／神様に与えられるままに／ただ ひたすらに咲き続ける／神さまに 喜ばれることだけを望み／ただ ひたすらに北風に耐え／今日の やわらかな光の中で／可憐さを いちだんと きわだせている／（ママ）

神さまが花を通して、信じることの大切さ、恵みの確かさを気付かせて下さった。しっかりと握っている神さまの手を、力尽きて私が手放した時も、神さまはしっかりと私の手を放さないで下さると…。 14回の入院の繰り返しの中、祈りと共に和ませてくれたのがサザンカの花だっ

た。（合掌） （29・04）

教育勅語と道徳教育

今問題の「森友学園幼稚園」で園児に「教育勅語（明治23年10月30日配布・昭和23年10月廃止）」を暗唱させ、マスコミや国会議論で話題になっている。

とうの昔に教育の現場で、学校での奉読を廃止し、神格化しない指示の上、新憲法と教育基本法の施行（1948年）で法的効力を失っている。禁じたのに亡霊のごとく、ゾンビのように蘇ったのは、前部分に「親に孝・兄弟仲良く・夫婦睦まじく・友を信じ等」現在に通ずる徳目が説かれているため、その部分を取り上げたのだろう。時代錯誤も甚だしい。大日本帝国憲法と天皇中心の国家観により、「一旦緩急あれば…」と国家君主に奉仕する「臣民」に、国体の精華の維持を教育の根源として刷り込む

勅語（天皇の言葉）であつて、現在相容れないものだ。

道徳教材としては「積極的活用は無い」（菅宜房長官談話）と戦前回帰批判に反論している。復権は許されない。暗記（今でも覚えてる）させられ、頭を下げ校長の訓話奉読で鼻水すすりながらの式典（10月）を思い出す。

（29・04）

学校薬剤師制度

新年度になり担当学校長より学校薬剤師の委嘱状を戴いた。発令は区教育委員会だ。適切な環境衛生を維持し、児童生徒の健康管理に医師・歯科医師の先生方と協力して、学校保健委員会で教員・PTA役員に、担当校の各種検査（水質・空気・プール・ダニ・照度・給食室等）の実施結果等が報告される。

学校保健安全法は、児童生徒が安全で安心な環境の中で、学習活動に

励めるように、文部科学大臣が決めた学校環境衛生基準に則って実施されている。

学校薬剤師設置の発端は、1930年小樽小学校でのカゼ薬と昇汞（毒薬）の誤飲死亡事故で薬の専門家の薬剤師の必要性が高まり、義務付けられた経過がある。これは世界に類を見ない学校薬剤師制度である。責任の重大さと学校長からの信頼にいつまで応えられるか、もう一年の任期を無事全うするために健康で居られることに努めたい。

（29・04）

肩車

休日の昼下がり、子供を肩車して歩く姿は微笑ましくなる。小学校の運動会で騎馬戦は3人で組み、騎手が紅白の帽子を取り合う。運動会のメインとして、マスゲームで組体操がだんだん高度化し、大型化するに

つれ、支える力のバランスで崩壊する事故が多発し、最近では小型化や中止になったようだ。

人を支えると言えば、4月11日人口問題研究所から公表された将来推計人口は、2057年一億人割れを推定した。1965年に高齢者（65歳以上）1人を現役世代（20〜64歳）9.1人で支えて来た「胴上げ型」の社会構造から、2015年2.1人、2065年には1.2人で支える「肩車型」の厳しい状態になる。未婚化・少子化・高齢化の為せる業で、年金・医療保険など、社会保障制度改革は喫緊の課題だ。

（29・04）

平和祈念碑

ペギー葉山さん（83）が急逝された。高校在学中からジャズバンドの専属歌手として、ジャズやポップスを唄い、1952年「ドミノ」でレコードデビュー。民謡調の「南国土佐を

後にして」やミュージカル「サウン

ドミュージック」の劇中歌に、自ら歌詞を付けた「ドレミの歌」やキャンパスソングの走りの「学生時代」等いろいろなジャンルの新境地を開かれた。現役バリバリのベテラン歌手だった。夫の根上淳さん（2005年死亡）とオシドリ夫婦で活躍されていた。

法政大学経済学部出身の根上（森不二雄）さんが、ご自身を含めて第二次世界大戦末期「雨の神宮外苑」から戦場に駆り出され、戦死された多くの仲間の「鎮魂祈念碑」建立に、委員長として率先して募金活動に専念され、1996年3月「平和祈念碑」除幕式に、ご夫婦で参加された。今多摩キャンパスの庭に建つ「平和祈念碑」を前に、先輩である在りし日の根上淳さんとペギー葉山さんを偲び、平和の有難さを噛み締めている。（合掌）後輩同窓生として法政大学の隆昌

が進展しつつあることに感謝。

（29・05）

閣僚の問題発言

最近、安倍内閣の閣僚らの問題となる発言が相次ぎ、週刊誌売上増大に寄与している。

☆金田勝年法相…組織犯罪処罰法改正案（テロ準備罪法案）「国会提出

前の質疑をするな」「不適切と謝罪」

（2／7）。☆務台俊介内閣政務官…

台風被害オンライン視察「長靴業界は儲

かった」「政務官辞任」（3／10）。

☆稲田朋美防衛相…森友学園起訴閣

与「事件の受任も裁判も法律相談も

無い」「記憶違い」と謝罪「発言撤回」

（3／14）。☆今村雅弘復興相…東京

電力福島第一原発事故「自主避難は

本人の責任」「反省謝罪・発言撤回」

（4／17）。☆山本幸三地方創生相…

観光復興文化財活用「ガンは学芸員

「不適切で謝罪・発言撤回」（4／

17）。極め付けは、☆中川俊直経済産

業政務官…2代続いての女性問題

「重婚・スキャンダル」「辞任・離党」

（4／18・21）。

こうも続くと、国会議員としての資質が問われる事態で、執行部は引き締め躍起は当然、全く選んだ国民が恥ずかしい。（29・05）

屋内禁煙法案

厚生労働省は受動喫煙防止のための「原則屋内禁煙」に関する「健康増進法改正案」を国会に提出出来ず却している。

3月1日の受動喫煙防止強化案

（厚生労働省）が「屋内禁煙実施」の

為の過料罰則（罰金等）を発表した。

世界保健機構（WHO）基準より甘い。

強化案の内容を盛り込んだこの法案

は、実は自民党のタバコ議員連盟が

大反対している。愛煙家、タバコ生産

農家、飲食店、タバコ販売業界等から

の圧力(献金等)で、案発表2ヵ月になっても厚生労働部会での説明も出来ないという。受動喫煙の弊害は重大な健康問題である。

塩崎厚生労働大臣は「密室妥協案」では骨抜きになると、公開部会開催の意向だ。頼り甲斐のある大臣に頑張ってもらいたい。(29・05)

プロの批評(九重親方)

春場所初日、「御嶽海」と「正代」について元大関、「千代大海」の九重親方がプロ目で期待を込めて批評をされていた。

日本人ホープの若獅子として、場所を盛り上げる「小結」二人をイチオシに解説、二人には「次の横綱になるのは、お前たち」と声を掛け、本人達に「ハッパ」と予言をされた。曰く、二人とも三役の相撲が取れ、24歳の「御嶽海」は勝ち方を知っている。相撲の流れを自分で作れる強み

がある。スピード感のある動きは観客を魅了し、四つ身も充分、突き押しで出足もいい。25歳の「正代」は先に三役になった「御嶽海」の存在が大きく、相撲内容はまだ優しい。厳しい取り口で土俵の空気を換えて欲しい。君たちはアマで横綱を張った男。プロの世界でも横綱を張る夢を目標に頑張れと激励された。

新横綱「稀勢の里」の千秋楽、劇的・感動的な逆転劇は、怪我を押しての2001年夏場所、鬼の形相の「貴乃花」と怪我の悪化で引退にながった同じ結果にならないことを祈る。因に両小結「御嶽海」9勝6敗、「正代」4勝11敗だった。

(29・05)

ナツメロとミニコン

毎月第3水曜日夜、30人程度のミニ席で(懐かしのメロディー)ナツメロと(プロ歌手のミニコンサート)ミ

ニコンを続けて、7月で50回を迎える。4年以上連続で実施しているで、スタッフに疲れが見え、区切りのよい回で終了することになった。

「継続は力」をモットーに「和」を以て実践できたことに感謝している。ベテラン・新人を問わず、意図に協賛されるプロ歌手の皆さんの実力に触れ、ナツメロと夫れ夫れプロの新曲を同時に堪能できる、歌手との親睦・応援の異色のジョイントコンサートを終了を惜しむ参加者の声が多く、感謝の気持ちで一杯である。有り難いことに、会場のオーナーの好意と激励で、新スタッフで再開継続の機運が高まっている。

「日本アマチュア歌謡連盟(通称NAK)」のカラオケ文化向上「カラオケ憲章」の「歌は友達・友は歌好き」を大切に、健康のためにも歌い続けたい。

(29・05)

医療カラパゴス

(29・05)

最近の週刊誌は医療についての海外事情を知ることが、単純な治療効果だけでなく、QOL(生活の質)を高める下支えの力として、上手に付き合う機会ではあるが、処方医師は日本人に適合した対応薬を処方するのであって、決して日本の医師が「ガラパゴスの位置付け」にあると決めつけるのはおかしい。

新薬はコストが高い。例えば、降圧剤(ARBアンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬「ミカルデイス」)「プロプレス」等は、新しいから良く効く筈だと使うが、安い利尿剤やCa拮抗剤(価格1/10)がある。医療費におかまいなく処方出来る理由もある。(国民皆保険)。

医師・薬剤師は専門家であり、いろいろな情報を勘案して、処方・調剤する。惑わされずに疑念を聞くのもいい。(嫌がられるかも知れないが!)

官僚の鑑(かがみ)

全体の奉仕者である官僚の忖度でないとしても、一步間違えば「政権崩壊」に繋がる国会答弁が、初めから「答える必要が無い方向」の「はぐらかし」の連発で、国民の疑惑を、代表者の国会が正そうとしているのに、確認もせず無視する「理財局長」の言動を見聞して、咄然とした。

森友学園疑惑の新たな焦点として浮上した「財務省の担当者」が発した「特例」という発言である。学園側がその「特例」に「神風」と表現したこととの反論を含め、国民の目から、全面否定での強行突破のために、「ウソ」だと思わざるを得ない「はぐらかし」を繰り返すことには最大の理由があった訳だ。

それは、2月衆議院予算委員会で安倍首相が、国有地払い下げ問題で

「私や妻・事務所が関わって要れば、首相も国会議員も辞める」と断言した発言にある。

この先、理財局長の処遇が目に見えてる。持つべきは「忠臣?」

(29・05)

飛び込み禁止

シーズンではないが、間もなく学校プールが始まる。

鈴木大地スポーツ庁長官へのインタビュー「ストッププール事故」記事(3月東京新聞)で、飛び込みの際の重傷事故の多発に対し、環境や指導法の改善を模索していると報じた。水深が3mあれば殆ど事故は起きないだろうが、小・中学校では構造上1m位の水位なので、授業での「飛び込みスタート」は禁止されている。

水深1mのプールでも指導が適切であれば、泳法や競泳のために飛び込みは「危ないから全面禁止」で無く、

危険を模索し、回避しながら臨機応変に対応する指導法が重要と言う。

事故は指導者の掲げるバーを越して飛び込んだための首の損傷であった。

エアーマットの空気の代わりに水を注入し、直下に沈めて置けば事故は防げる。このことを取材の記者に提言の文書を送ったら、すぐ謝礼の電話が入った。

常識的にも真下に飛び込ませず、リレーのように前部へ足で蹴って飛び込む指導をしないと、競泳は出来ない。水遊びでは無いのだ。

(29・05)

「共謀罪」法案

共謀罪の趣旨を盛り込んだ「組織犯罪処罰法改正案」が5/19強行可決された。法案の国会審議は異例づくめようだ。2月、金田法務大臣は「法案提出後に論議すべき」と報道機関に資料配付、4月審議が始まる

と刑事局長常時出席、法相の答弁肩代わり。予算委員会で「私の頭脳で対応出来ない」。これに対し、意見も能力も無いとの不信任決議も否決。こんなことで30時間の審議を超えた」と強行採決になった。

野党議員も追及が弱く、政府側も「意味不明の答弁」に終始。国会軽視どころか崩壊の様相である。追認するだけの与党議員では、立法院の役割放棄に繋がってしまう。粗雑で、ともに審議しない法案の成立後は、戦前の公安復活に戻る可能性大と感じた。

参議院での審議も与党議員の沈黙は許せない。沈黙は万死に値する。「刑法は国家の鑑」そんな重要法案に危険性の歯止めが無く、数の民主主義なのか？

(29・05)

回文

「長き夜の 遠の寝ふりの 皆目

覚め 波乗り船の 音の良きかな」

(古典) ※沈音は清音で可 「信州

の東京」5月号に、敬愛する土屋喜

市氏(長野県人会連合会副会長)が、

私の「医家芸術 文芸特集号」に寄

稿した「回文」について、思いがけず

正月初夢の故事の古典回文(前掲)を

「懐かしい思いでの1コマ」ととら

えられ、感謝のお言葉を頂戴した。

また私の剣道の師、大館和夫師範

の「特攻隊出陣奇跡の生還」につい

ても記述された。土屋氏ご自身の戦

陣体験を考えると、正に頭の下がる

思いである。お二人の平和日本の礎

の語り部・先達として、共に卒寿を当

の昔に超えられ、尚矍鑠(かくしゃく)

としてのご活躍に「幸あれ」と願うも

のだ。(信州の東京5月号参照)

回文について、中学の同級生の土

屋耕一氏(著名なコピーライター)の

回文はプロ中のプロ、素晴らしい作

品が多い。「鬼怒川・川治 見物(み

もの(紅葉(もみじ)は川が貫き)私、佐藤土砂の近作「難(むずか)しい回文 部位が 意志 翳(かす)む」(29・06)

第67回 新興展

五月晴れの一日、何回目だろうか、今年も畏友(後輩になるのだが)川原善次郎氏の創作出品を、お誘い戴き、上野東京都美術館「新興展」に見に行った。

川原氏は浪越指圧の静岡県の重鎮で、本業の余暇毎年素晴らしい大作を出品され、遂に同会理事に推挙された。日本指圧専門学校同窓会会長として、公私共に「多忙の中の力作、今回は2点の出品(120号)、ますます充実した作品(1点は小品15号で、あたりを圧巻、睥睨(へいげい)していた。10年ほど前、日本指圧教会機関誌「指の光」に興味との両立を、私のカラオケグランプリ受賞と

共に掲載されて以来の事だ。趣味の域を超えた作品「金閣寺」京都府知事賞受賞はカレンダーとして私の治療室に貼ってある。益々の健筆?を願って止まない。

(29・06)



殊勲賞と新関脇

連日「満員御礼」が下がった夏場所新横綱「稀勢の里」の三連覇が懸かった大相撲は、「白鵬」の6場所ぶりの、それも13回目の全勝優勝で締められた。

やはり、「稀勢の里」の怪我は尋常では無く連敗の上、途中休場とな

た。怪我が心配だ。大関昇進を懸けた弟弟子「高安」は自力で11勝を挙げ当確、優勝を意識してか、不満足ではあった。東小結「御嶽海」は9勝を挙げた先場所、関脇昇進成らずにも拘わらず、初日横綱「鶴竜」を破り3連勝と出足は良かったが6連敗にもめげず、全勝横綱「日馬富士」に押しで圧勝、千秋楽好敵手「正代」には敗れたが、殊勲賞と名古屋場所(七月場所)の新関脇を手中にし、連日の長野県人の声援に応えた場所であつた。

「白鵬」も足指を痛めていたとのこと、好漢「御嶽海」も怪我が大敵稽古で新(さら)なる上の地位を狙って欲しい。60周年の名古屋場所が面白い。(29・06)

剣友会会歌

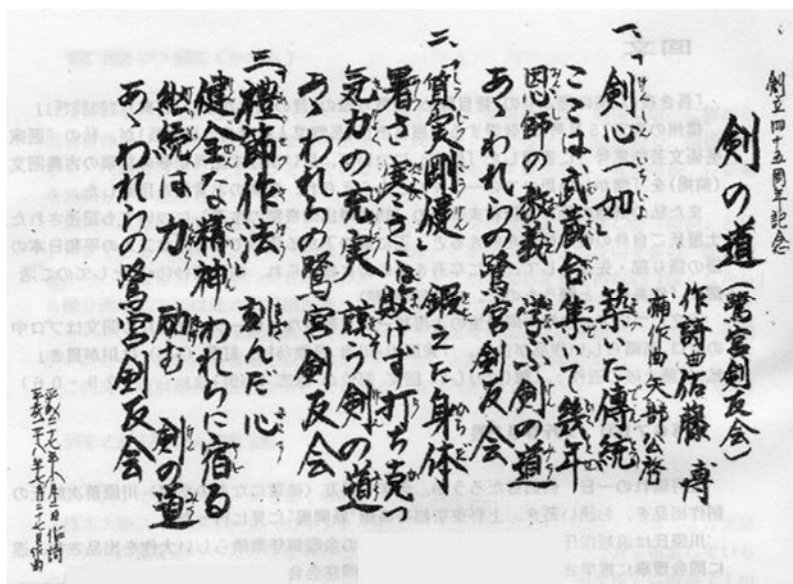
旧聞になるが、昨年、吾が剣友会は創立45年を迎え、大会と記念誌を發

行した。

中野区で新たな“区歌”を長野県

り、平成4年、前会長の死去から会長として会の維持に努めている。存続を確かめながら、会員減少で歌うことは叶わなかったが、記録として残したい。

(29
•
06)



中吊り

最近のニュースの見出しの数々の凄まじさ、ジャンル別にアピールする(選択6)。

《世界》「トランプ依存」(危い日本) 泥沼ロシアゲートに沈む米政権。「一帯一路」は中国を衰退させる。「孤独帝国」習近平。ロシアの北極圏「軍拡」が加速。ドイツ連邦軍に広がる「ナチズム」凶暴さ増す北朝鮮「サイバー部隊」。

《政治》日本を腐らす「総理のご意向」、「政治の私物化」で失速する官邸。政権とNHKに北方領土「やらせ疑惑」。創価学会に擦り寄る安部(改憲と長期政権維持)。

《経済》日本郵政グループ「高値掴みの赤字転落」。信用金庫・信用組合に迫る「大量死」マイナス金利の生け贄たち。ソニーが韓国LGに屈する「惨め」。「万年三位」三井不動産の惨めな未来。「ニコン救済」富士フイル

ムが浮上。

《社会・文化》航空自衛隊「スクランブル」東シナ海「空の国境」での日中の暗闘。獣医師不足という「虚構」。中吊り泥棒「週刊文春」の唯我独尊。etc。(29・06)

印象操作

事業を誇張し、歪め、相手の評価を落とすようなやり方と言う。

今、国会論戦史上、最悪の使い方に対応している安倍総理の「まじない」とも言うべき答弁に、悪霊退散を唱えている感がある。

友人が理事長を務める学校法人「加計学園」の獣医学部新設を巡り、野党の追及に対し「印象操作」「自分に対するいい加減な言い方」と唱え、関与を否定し続けている。

あやふやな時間稼ぎ、ごまかしの対応では、世間の「印象」を悪化している。国政の調査と言う国会の責務

を、国民の代表として誠実に果たして欲しい。

上が上なら文部科学省も同罪、腹心の友の計画を巡る行政の判断に問題の核心があるのだ。このまま子の未来を託す教育行政をまかせ続けているのか？

理由にもならない理由で再調査を阻む不誠実さが見え隠れする。

(29・06)

ムシ歯予防デー

暫く忘れていたが6月4日は「ムシ歯」予防の日であった。「歯を大切に、80・20運動」の宣伝広告がマスコミに流れた。(80歳で20本保有) わたし自身、40代で齲歯(うし)「虫歯」のため抜歯して以来、徐々に歯を失い「80・20運動」は、とうの昔に失格になっていた。最近のニュースでは高齢者の20本保有率が上がっていると聞き、老人の関心度・忠

実度が高まっていることを知った。

ご同慶の至りである。歯を磨く習慣を続けていても、現在入れ歯（80・04）の我が身では、抜かない歯の治療を薦めるのがせめてもの願いだ。

歯の健康で重要なことは「歯周病」の予防で、糖尿病との関連や歯を支える骨を溶かす「歯周病菌」の存在がある。血中に入り全身を犯すという。口腔内の清潔の保持と毎日30回噛む食事の習慣で、87歳の現在無病息災で居られる健康管理を確立して居ても「抜歯」の事実は残念でたまらない。歯茎マッサージや食後・就寝前の口中殺菌薬の外にも、緑茶の口漱ぎが良いそうで、歯周病を防ごう。（29・06）

COPD死亡率急増

日本指圧専門学校同窓会記念講演で、慢性閉塞性肺疾患（COPD）（既報29・01）についての知見を得た。

それが原因の死亡率が、1965年を100%として1998年には163%に急増し世界保健機構（WHO）によれば、2020年には世界の死亡原因の第3位になると推定し、我が国は今後更なる高齢化に伴って肺機能が低下し、呼吸機能障害者が増えることが予想される（一條幹史歯学博士談）。

既報「歯周病予防」でも警告されたが、高齢者の死亡原因が「たかが肺炎、されど肺炎」ならぬ誤嚥（ごえん）性肺炎、つまり口と歯の病氣にある。年間10万人が死亡している。死亡率90%（週刊現代）として、入れ歯・インプラント処置の方は要注意と警告している。寝ている間に、肺炎は進行し、口内が乾く「ドライマウス」の人は特に危険。入れ歯の洗浄は絶対毎食後実行してほしい。声を出す肺機能の賦活にはカラオケが最良であるとのこと。我が意を得た情報では

ある。（29・06）

健康県長野

厚生労働省は6月14日、人口10万人当たりの年間死亡者数を示す2015年の「年間調整死亡率」を発表した。

それによると都道府県別死亡率トップは青森県の男性（585・6人）女性（227・1人）、特に男性は6年連続、女性も2年連続の快挙であった。

年間調整死亡率とは、年齢構成の異なる都道府県間で住民の死亡率情況が比較出来るように調整した数値で、健康増進行政に活用されている。全体的に「ガン・心疾患・脳血管疾患」の三大死因別死亡率が下がったと言われているが、青森県は前回も男女死亡率が全国最高で、同省では「塩辛い食べ物が多い食習慣」の影響と推測している。この快挙は健康県長野

の勲章であり、常日頃のP P K運動と地域活動の成果の賜物である。

(29・06)

強行「共謀罪」成立

まるで、戦争でも始まったかのような号外型の大活字の夕刊の見出しは、当然と思う程、逆の驚きであった。改正組織犯罪処罰法（テロ対策を含む）である。

何故急ぐのか、数々の問題点を置き去りにして国会論争をせず、6月15日未明の参議院本会議で深夜に至る強行採決なのか。数の力での批判封殺は国民（反対運動参加者を含めて）の訴えに耳を傾けない政府与党の強引な国会運営から透けて見えるのは、国会を閉じてしまえば（18日までの会期延長せず）国民は「この暴挙を」すぐに忘れるだろうという思惑が見え隠れする。議員の良識は数の論理なのか。

安倍首相は、成立を受けて「東京五輪・パラリンピック」を3年後に控え、一日も早く国際組織犯罪防止条約を締結し、テロを未然に防ぐために国際社会と連携した上で、適切且つ効果的に法律を運用していきたいと記者団に語ったと報じた。

大枠だけでの277の対象犯罪が恐ろしい。

(29・06)

夾竹桃

可憐なピンクの花が盛り、東京都薬用植物園の有毒植物コーナーにその花が区分されている。花は夏咲き、紅・桃色・白・黄色、何処にでも見られる常緑樹である。

実は、「夾竹桃」は猛毒のオレアンドリン毒性(KCN青酸カリの50倍)を持つているのだ。原産地インドの名は「自殺の木」、死にたい人が自らその実を食べて亡くなるといふ。樹液が口に入ると嘔吐・下痢・し

びれ等の毒性症状が出て、致死状態になることもある。花の香りを嗅ぐ事で呼吸不全に、枝をバーベキューの串にした人の死亡例、つまり、樹液が口・目・傷口に入っても危険。低温焼却で有毒ガス発生、徐々に(24時間タイムラグ)致死という緩慢毒というから危険だ。排気ガスに強いため公害対策に植えられた経過がある。一見、着飾ったトロピカル娘、派手な花には毒がある。樹液には触れるな、燃やすな!と警告したい。(29・07)



新しい日本語

山口二郎法政大学教授の「本音のコラム」（東京新聞）が痛快な指摘で、日本語の崩壊を新種の言語出現として記していた。

曰く、アベ語…「素直に反省」とか「説明責任を果たす」など本心とは真逆の意味を持つ。聞く者を欺く事だけに機能する。

スガ語…「問題ない」「指摘は当たらない」など、相手からの疑問や批判に対し「全く理由を示さず、自分が正しいと判断する」語法。

オトシメ語…「もっぱら相手を罵倒したり侮辱したりする」ために存在する言語。この言葉に染まると、話者は思いやりなどの美德を失う毒性の強い作用を受ける。つまり、部下をスパイ呼ばわりする大臣から、女王様気取りのエリート女性議員（キタナイ怒声と暴力）まで蔓延する。野党

は憲法五三条に基づいて臨時国会召集を要求したが、拒絶するならばアベ語・スガ語で、どう説明するか？ 歪んだ言葉を正す事は民主政治を守る事であると厳しい。（29・07）

将棋（天職と連勝）

「ひふみん」として多くのファンに愛された加藤一二三九段が引退された。ご自身は「将棋は天職」として、70歳を過ぎても研究を怠らず、連勝中の藤井聡太四段にプロデビュー14歳7カ月を破られるまで、1324勝1080敗、63年の長きに亘って歴代3位の記録を維持されていた。新しい風、プロデビュー以来不敗の藤井聡太四段「29連勝中（6月26日達成）」と第一局に「62歳差対局」と話題を提供されたが、「加藤先生と対局し、その迫力ある指し手を感じ出来たことは、私の大きな財産になる。」とコメントされた。

プロ63年というとてもない現役維持の金字塔は日本の文化の中で「将棋」を芸術的高みに位置付けられたのは加藤九段のお力である。（29・07）

ガン治療

市川海老蔵さんの献身的な闘病の対応にも拘わらず、愛妻の「ガン死」を防ぐことが出来なかった。一体如何なる治療法を選択されたのか？ 何故克服出来なかったのか？

若い方のガンは恐ろしい。乳癌の手術回避から、セカンドオピニオンの泰斗近藤誠医師のガンもどき説や酵素飲料・水素水その他、いいと思うあらゆる治療法を実施された上での悲しい結末と知り、遺された「カンちゃん」のあどけなさが涙をそそる。

健康産業に携わって以来、病因と治療法や健康管理について、いろいろ

ろ見聞し指導して来たが、ガン細胞の異常増殖が何故、宿主主を滅ぼし自死するのか？「ガンは恋人」（既報27・08）のD氏のガン対策でも、一旦快癒しながら敢えて前の食事療法で、再発が無くても、愛人（ガン）と心中する結末（闘病5年目）を知り「運命」では片付けられない「ガン」の恐ろしさを知る。私は「ガンはウイルス説（蓮見V）（丸山V）を採る。免疫力を高めれば良い。切ったり焼いたりガンを痛め付けてならないのに。切らない選択が裏目とは、お若いのに・・・無念だ。（29・07）

議論を封じる

現在の安倍内閣は数の論理によって議論を遠ざけ、議会の存在を形骸化してしまった。前川喜平氏（前文部科学省事務次官「官僚の最高地位」「現在ただの人」）が「わが告発は役人の矜持だ」（文芸春秋7月号）の

中で、加計学園獣医学部新設を巡る官邸側の圧力で行政が歪められたと詳述している。文部科学省内では、「もの言えは唇寒し」の雰囲気が出がっていると言う。国民の知らない所で、筋の通らないことがまかり通るデモクラシーの崩壊でもある。前川氏に対する官邸のやり方は権力に逆らうとこうなる「脅し・見せしめ」、監視と密告と疑心暗鬼に塗（まみ）れた、まさに「共謀罪」下の社会の先取りである。安部一強は「裸の王様」なのか、取り巻きの付度や「虎の威を借る狐」の存在が保守政治の王道を踏み外していることに気づいていないのだ。

保守の先人たちが批判して来た政治勢力そのものに成り果てている。

（29・07）

蝗（いなご）・杏・樹木

日曜版（東京新聞）に三題話を見つ

けた。偶然か信州に関連した記事であった。

蝗（いなご）は戦時中疎開先の長野で、タンパク源の補給に田ん圃の「いなご取り」で、伯母が佃煮風に仕上げ振る舞ってくれた。養蚕の桑くれの手伝いで、蚕のサナギもおよつの替わりに戴いた。都会育ちの身に、見た目を超越し、食欲を満たしてくれた。言わば、地産のひとつで、諏訪の原田商店の「いなご甘露煮」は道の駅で売っている。

長野市の疎開先の実家に母が丹精していた杏の樹があり、春に花・初夏にオレンジ色の実がたわわに実り、私たち6人の兄妹のデザートであり、種を取り天日に干すだけで「干し杏」は保存食に成った。長野駅の売店の「杏しぐれ」が素朴な土産品であった。

駒ヶ根市で林業界の人手不足から「樹木管理」つまり、育ち過ぎた樹木

の伐採を起業化した愛知出身の方の
記事が載っていた。「特殊伐採」は隙
間分野の仕事で、神社・仏閣・路線際
山林育成と各地に要望は多いようだ。
別々の記事だった。(29・07)

都議選後のこれから

7月2日の都議選の開票結果「都
民ファーストの会」が一举に55議席
を獲得した。衝撃的な小池知事の圧
勝であった。国政で政権を担う自民
党と野党第一党の民進党が、共に大
敗したことは、国政に対する徹底し
た現状否定でもある。そして二大政
党が政権交代する政治体制の否定だ。
しかし、これは国際的潮流である
と政治学者「御厨(みくりや)貴」氏
は言う。フランスでは二大政党が立
てた候補者が共に敗れ、マクロン氏
が、そしてアメリカでもトランプ氏
は共和党を代表する存在でも、民主
党でも無い。吾が党である。何れも既

成二大政党への失望、嫌悪感の生ん
だ要因という。

都議選の勝因は政策的な期待より
国政に対する嫌悪感が表面化し、小
池都知事の人氣と相俟って新勢力と
しての登場になったのだ。イデオロ
ギーとか政治的信条は殆ど不明で、
新鮮な集団の政治の在り方としては
極めて危やふく、すぐ代表を降りた
小池都知事の、首都の対オリンピッ
クを含む都議会での対応が注目され
る。(29・07)

夾竹桃(続編)

散歩がてらに偶然、近隣で大きく
育った夾竹桃を見つけた。隣区(家の
前は練馬区)中村3-10地点、S家
の玄関前にその花(白色)が満開であ
った。東京新聞の投書(写真)で「毒
性を知らなかったのだ、周知徹底し
て欲しい」の記事もあり、化学者とし
ての矜持から、見捨てることは出来



ず、関係機関(練馬保健所)に処置指
導を促す様折衝している。事故が起
きてから「知らぬが仏」では済まざ
れない。燃やしても、嗅いでも、折つ
ても毒性は不変。始末の悪い公害対
策のツケの産物なのだ。間違っても
花の匂いを嗅いではいけない。

そんな時、夜しか通らなかつた直
近の鷺宮5-2新青梅街道沿いに、

なんと綺麗なピンクの、それも大きい10本近い『夾竹桃』（写真）を発見したのだ。前で開院の獣医師さんもその危険さに気づかずいたようだ。直ちに昵懇の中野区保健所に写真と上記練馬の記事を届け、善処方を依頼した。都道は都第三事務所の管轄で、直ちに対応したと係から電話を戴いた。インターネットでは適切な花粉媒介虫がいなかったため挿し木



繁殖したクローンばかりで果実は実らないようだ。市町村の花・木では千葉市・尼崎市・広島市・鹿児島市。佐世保市は毒性を理由で指定を取り消した。広島市は原爆被災後の中、いち早く咲いた花樹のためとか。毒性は1980年、千葉で飼料牧草に混入したため、乳牛20頭中毒、9頭死亡報告。牛一頭当たり約0.5g乾燥葉

の猛毒。50mg/kg（牛、経口）の報告有り。何故こんな猛毒をほったらかしているのか？（29・07）

【前号の訂正とお詫び】

前号春夏号（通巻631号）掲載の『記備談語』内において次の通り訂正いたします。申し訳ありませんでした。

☆20ページ上段2行目

《誤》尾 ↓《正》約

☆20ページ上段6行目

《誤》王手 ↓《正》大手

☆29ページ下段12行目

《誤》名残 ↓《正》名残り

☆32ページ中段5行目

《誤》魚海岸 ↓《正》魚河岸

※タイトル「記備談語」について

「記事・備考・談話・語録」の頭文字から「きびだんご」として、健康関連情報や関係団体の新情報、世相のニュースから勝手連的に、日々アンテナを

巡らせ、頭の老化防止に努めております。ご笑覧下さい。少しでもお役に立てば幸いです。

薬剤師・指圧師・剣道6段・NAK認定歌謡講師 佐藤 玄祥 (博)

座間味の夏

出来 尚史

無人島にて

ザザッ、と舳先が砂をかんだ。
「着いたぞう！」

船頭が叫ぶ。待ちに待った無人島への上陸である。

船縁を越えて波打ち際へと飛び降りた。飛沫がかかる。塩辛い水を拭いながら顔を上げると、そこには目の覚めるような

白い浜があった。誰もいない。何も無い。向こうに岩と亜熱帯植物の茂みが見えるだけ。あとは手つかずの珊瑚の砂、優しく打ち寄せる波、海と、空と、夏の雲。三十年ぶりの訪問なのに少しも変わっていない。時の神様がここだけは見逃した。そんな感じがする別天地だ。

この島の名は嘉比島という。座間味本島から渡し船で十分足らず。スノーケリング愛好家といえどもここを知る人は少ない。

「午後になると潮が変わるから気をつけな。昼前に迎えに来るよ」こう言い残して、船頭と空っぽの船は帰っていった。さあ行動開始。駆け出した足元で珊瑚の砂が音を立てる。ザクザク、ザクザク。心地よい南国の響きだ。緩い斜面を少し上ったところに日除けの簡易テントを張り、フィンと水中メガネを掴んで渚に向かった。

右から左へ百八十度、何処までも青い海が広がっている。息をのむほど美しい。

ここで見る青は座間味特有の青だ。強い日差しと透明な水、珊瑚の海底がこの美をもたらした。よく見ると海の色は単なる青の濃淡だけではない。場所により緑や紫などの色が合わさり、海全体が連続あるいは不連続に変わる色彩の集合として目に映る。鮮やかで、明るく、透明感にあふれた常夏の色——座間味の魅力はここに集約されるといっても過言ではない。

水に入るとさつそく魚たちの歓迎を受けた。青い魚の群れ、そして黄色い魚。青いのはルリスズメ、黄色い方はヤマブキベラか。どちらも申し合わせたようにのんびりムード。泳ぎ自体を楽しんでいるかのように見える。

少し大きな魚がやって来た。こちらは全身が黒っぽい。ヤツコダイの仲間かもしれない。御飯時とみえて珊瑚の端を熱心につきき始めた。おや、なんだかくすぐったいぞ、と下を見れば——なんだ君か。私の足に触れたのは黄色に黒い横縞

がついたオヤビツチャ。なんともユーモラスな名前だが、その丸い体型、愛嬌のある小さな目を見ればなるほどと思う。

今私がいるのは渚から続く浅瀬だ。寄せる波、引く波に合わせて水全体がゆったりと動いている。魚の移動も水任せ。同じ姿勢で行っては戻り、行っては戻りを繰り返す。中にはヒレ一つ動かそうとしない怠け魚もいて——もしもし、そのままではメタボになりますよ。

平和な光景の中に突然大きな魚が飛び込んできた。のんびりしていた魚たちは大慌て。右往左往した末にバラバラの方向に去って行く。飛び込んだ魚は？あれ、もういない。

間を置かずして、今度は別の魚の襲来だ。辺り一面さんさん引つ掻き回した挙句、これもどこかへ行ってしまった。騒ぎが治まれば、残るは元の静穏な海。珊瑚の陰に隠れていた小さな魚が顔を出し、逃げていた魚も戻って来る。何事もなかったかのように泳ぎ始める彼らの姿を見

ていると、こちらの口許も自然に綻んでくるといふものだ。

浅い海でもこんな調子である。深い所にはもつと面白い光景が待っているに違いない。私は海底を蹴り、フインを使つて泳ぎ始めた。スノーケルの具合は上々。メガネには一点の曇りもない。

岸から離れるにつれて水は次第に青緑色を帯びてきた。驚いたことに透明度は保たれたままだ。陽光が海中に満ち満ちて、信じられないほど明るい世界を作り出している。魚も、珊瑚も、海藻も……水にあるものが全てが鮮明に見える。

珊瑚にもいろいろな種類があることがわかった。小さな穴が一面に開いたもの、きれいな網目模様をつけたもの、複雑な溝を持つ珊瑚など。これらはいずれも白色あるいは黄色で、丸い岩のような形をしていた。これに対し最も珊瑚らしいと言えるのが枝を持つ種類だ。色は白から赤紫までさまざま。鹿の角のようにきれいに枝分かれしているものもあれば、ぎ

ざぎざに先が尖っているものもある。指状の突起を突き出している珊瑚も多い。

また紫がかったピンク色の板が合わさり、海の花キャベツかと見まがうものもあった。他にもテール状、円盤状などその多様性には感心するばかりである。

多様といえば、ここを活動の根拠地とする魚も実に種類が多い。逐一名前を上げるわけにはいかないので、私の心に残ったいくつかを選びその有様を記するに留めたい。

まずはクマノミからいこう。映画の主人公カクレクマノミ「ニモ君」よりは幾分大型の種だ。一匹が枝珊瑚の林の上を悠然と泳いでいた。この仲間はイソギンチャクの中が周囲にいるものと思っていたので、少しびつくり。背中が黒く、あとは濃い黄色。これに白い横縞が二本くつきりと付いている。下駄の歯に白いペンキを塗って押し付けたかのようにだ。前方の縞は若干目の縁に重なっているので、歌舞伎役者のようにも見える。なかなか

秀逸なデザインだ。ヒレの形はカクレクマノミほど仰々しくはなく、むしろスマート。これを動かして進むさまは実に愛くるしい。熱帯魚ナンバーワンではないか、と密かに思ったほどである。

次に紹介するのはチョウチョウオ。珊瑚の間をヒラヒラと舞うように泳ぐことからこの名前が付いたという。日本近海に五十種類もいるそうだが、今回そのうち八種類に出会い、撮影に成功した。アケボノチョウチョウオ、アミチョウチョウオ、イッテンチョウチョウオ、トゲチョウチョウオ、ミスジチョウチョウオ・・・。

中でも印象的だったのはトゲチョウチョウオである。背ビレに細長いトゲと特徴的な黒い斑点を持つ。この魚、何ヶ所かで見かけたが、いつも二匹で泳いでいた。ほぼ一定の間隔を保ちながら珊瑚の横を行ったり来たり。方向を変ええるタイミングもピッタリ揃っている。



雄と雌のカップルかもしれない。となると、このシンクロは夫唱婦随のムーヴメント？ それとも奥方が先導している？ こんなに近くにいるのに私のことは全く気にしているようすはない。軽やかに、あくまでも軽やかに、二匹は舞い続ける。地上では決して見ることはない

優雅なワルツだ。

モンガラハギの仲間にはユニークな姿をしたものが多い。ムラサメモンガラもその一つ。この魚を見つけた時、私は心底驚いた。ピカソは海の中にもその作品を残したのだろうか。突き出た大きな口、極端に後方にずれた眼、青と黄色とベージュ色の頭、体には墨を撒き散らしたような模様を付けている。どこをとっても前衛芸術である。

とにかく大きい。六、七十センチはあるだろう。ガラス玉のような冷たい眼、黒白の網目模様で飾った胴体、いかにも硬そうに尖った背ビレと尻ビレ。よくぞここまでと感心するほどの強面だ。辺りを威圧しながら進むさまはまさに海のギヤング。上から見ている分にはまたいい。正面から出くわすのだけは遠慮したい存在である。

海のギヤングといえバウツボの話もしなくてはいけない。この一匹は妻が発見した。海底の岩の隙間から三角形の頭と

鍵型に曲げた尻尾が飛び出していたのだ。私たちが見ているうちに、ウツボはゆつくりと体を伸ばしながら砂の上に出てきた。全体に黒っぽい印象だ。長さは二メートルいだろうか。深く潜って間近で見ると、黒い斑紋がある。ドクウツボかもしれないと思った。こんな魚がいることは図鑑では知っていた。だが本物を見るのは初めてだ。

息つぎのため私は一旦海面まで浮上した。振り返って見ると、ウツボはS字型にうねったまま動きを止めている。ウツボと私の距離は三m弱。そこに二十四余りの小魚がやって来てグルグルと回りながら泳ぎ始めた。ウツボが首を上げてそれを観る。ウツボは王様、小魚はお抱えのダンシングチームであるかのように踊るは花のロンド。私も水のヴェールを通して、彼らの名演技をしぼし堪能することができた。

楽しい時間はあっという間に過ぎていく。そろそろ迎えの船が来るころだ。未

練をたつぷり残したまま私たちは海から上がった。

上陸地点のわき、水面下わずか三十cmのところに広い岩畳があった。その岩畳の上に揺れ動く光の模様が出来ていた。ある時は縞模様、またある時は網目。不定形の光の曲線が軽やかで美しいレースを編んでいる。太い糸もある。細い糸も。それらが互いに交わり、輪をなし、捻じれ、一旦解けてはまた合わさる。ゆらりゆらり、一時として留まることはない。日光と、波と、透明な水、さらに平らな海底、すべてが揃ってこそ生まれる極上のアートだ。

水を掬ってみた。指の間から海の雫がこぼれる。その雫が海に還り、小さな波紋ができた。光の模様がまた変化する。揺らめく幻想の世界に新たなページが加わった。そして瞬時に次のフェーズへ……。じつと見ていると引き込まれそうになる。私はいつのまにかこの光景に、地球三十八億年の生命の歴史を重ね

て見ていた。



アオウミガメに会う

午後は阿真ビーチに出かけた。座間味港から西に二kmほど行ったところだ。電動自転車ですぐいと坂道を上り、そして下る。わずか十分で到着した。

驚いたことに浜は随分と様変わりしていた。建物がある。キャンプ場がある。砂浜にはパラソルが立ち並び、若者や家族連れの姿が見える。以前ここに来た時は何もなかった。人影のない海岸で、たしか遊泳禁止だったと思う。それにも拘わらず泳いでいると地元漁師から大声で叱られた。収穫といえば、生まれて初めてヤガラが泳いでいるのを見たことぐ

らいだろうか。寂しい浜、そんな印象しかない。それがどうだ。今や立派なリゾートビーチに変身だ。喜んでいいのか、それとも悲しむべきなのか私にはわからなかった。

入口に亀の絵を描いた看板が立っていた。ここにウミガメ？ それは初耳だ。是非ともお目にかからねば、と俄然元氣が出て来る。「単純なんだから」馬鹿にする妻をしり目に私は勇んで海に乗り込んだ。

さて、目指すウミガメはどこにいるのだろう。広い海のこと、かいても見当がつかない。とりあえず遊泳用にと張られたロープ内を調べることにした。ここの海の透明度は嘉比島のそれと比べてわずかに落ちるような気がする。まあ、でもウミガメのような大きな動物の探索には差し支えあるまい。

潜ってみてわかったことだが海底の大部分が砂地である。古い珊瑚でできた小隆起はあちこちに認められた。しかし元

気な珊瑚は数が少ない。そのせいか魚たちの姿もまばらだ。特に色鮮やかな小型の魚がいない。目についたのはサザナミヤッコやテングハギ、黒っぽいタイの仲間など地味な種ばかりだった。

ウミガメ、ウミガメ、と心の中で呟きながら一時間ほど海中を巡ってみた。ロープの外にまで捜査範囲を広げたが、それでも発見できない。先に諦めたのは私の方だ。もう少し頑張る、という妻を残して岸に上がった。

アダンの木の元に座ってしばし憩いのひと時を楽しんだ。私の頭上にオレンジ色をしたパイナップルのような実が見える。この実はヤシガニの好物だと聞いていた。む？ この島にはヤシガニがいる？ 居眠りをしている間に私の体をよじ登ってきたらどうしよう。アダンの実を取る前の腕試し、とばかり鼻をチョキンと切られたら困る。愚にもつかぬことを考えていると次第に眠気が襲ってきた。空は限りなく青い。海の色も輝きに満

ちている。馨しい海風が吹き、波が優しく囁く。心も体も溶けて行きそうな穏やかな風景だ。ヤシガニのことをすっかり忘れて夢の世界に入ろうとした時、妻の呼ぶ声が聞こえた。

「いたわよう！」

規制ロープの外側、かなり離れたところに四、五人集まっている。妻もそのうちの一人。全員が水しぶきを上げて同じ方向に泳いでいた。おいおい、ウミガメを追いかけてやダメだよ。看板に書いてあったじゃないか。とは言ってみたものの、私の方も見たい一心で気が逸る。しかし焦ってはみつともない。誰が見ているわけでもないのに精一杯落ち着いたふりをしながら近寄っていた。人の動きが止まったところを見るとカメも移動をやめたのだろうか。

妻が指差す下をそっと覗いてみた。あつ、いた！ ウミガメだ。眼下約三m。楕円形の甲羅に四本の肢、頭と尻尾が見える。海底に張り付いたように動かない。

いや、わずかだが頭が動いている？ 摂食中と思われたが詳細は不明だ。もう少し近寄ってみよう。私は直下潜航してウミガメの傍らに降りた。

丸みを帯び、すべすべした感じの甲羅だ。縁は滑らか。亀甲の文様は六角形。一つ一つに褐色の放射状の模様がある。多分これはアオウミガメだ。甲羅の長さは六〇cm。まだ成長中の若い個体であろうか。雌雄の区別は私にはわからなかった。尻尾が短いので雌だとは思ったが。

前肢は大きく長い。最初は幅広く始まり、前方「く」の字型に曲がつて先の方は徐々に狭くなる。船の櫂の形というが、むしろ鳥の翼に近い。鱗板も前の方は小さい多角形で、後方は短冊の並列だ。鳥の羽に類似している。鳥は羽ばたいて空を飛び、ウミガメは羽はたくように前肢を動かして海を泳ぐ。浮力、推力の元となるのは前者で空気、後者は海水である。双方共自ら選んだ環境に適応するため今日の姿に進化した。

ウミガメの歴史は古い。四肢が櫂状に変化したのは一億一千年ほど前らしい。祖先の一つと目されているのはサンタナケリスだ。白亜紀の地層から化石が見つかった。全長二〇cmと小さいがすでに立派なウミガメの骨格をしていたそうだ。

ここにいるのは現代のアオウミガメ。頭部をじっくりと観察してみた。丸く、温和な感じだ。甲羅や肢と同様こちららも輪状の板で覆われている。サイズがまちまちの六角形の集合である。眼は大きい。大部分が黒目なので潤んで泣いているかのような印象を受けた。でもこれはあくまでも印象。カメに言わせれば「冗談でしょう。私はいたって上機嫌よ」となる可能性が高い。失言、お許しあれ。

正面から観ていないのでよくはわからないが、ウミガメは今なにかを齧っているように見える。アオウミガメの主食は海藻や海藻ということだが、辺りに海藻が生えている様子はない。石に海藻でも付いているのだろうか。残り物を漁って

いるとすれば気の毒だ。この体を維持するには相当広い範囲を移動して摂食活動に勤しむ必要があるだろう。おっとこれも余計なお世話か。



ウミガメの口の動きは止まらない。いつとき頭を上げたがまた下を向いてガジ

ガジあるいはガリガリ。この繰り返しばかりだ。私は息が苦しくなって海面に上がった。息止め競争では到底ウミガメに敵わない。スノーケルに溜まった水を抜き、深呼吸を三回して再び潜った。

下まで行き着かないうちにカメが移動を開始した。私にも付いていける位のゆつくりペースだ。海底すれすれに二十mほど進んだところで再び着地。私も傍に寄った。また例のガジガジが始まっている。この岩には海藻のようなものが豊富に付いているようだ。ガジガジ、ムシヤムシヤ。カメは一心不乱に食べる。その姿を見ながら、いったいどんな将来がこの子を待っているだろうと考えた。

アオウミガメは国際自然保護連合のレッドリストや環境庁のレッドデータブックに載っている絶滅危惧種である。前者ではIBにランクされているという。IBとは過去十年間に五十%以上減少した種の意味。ことは深刻だ。次の十年の間には地球から消えてしまうかもしれない。

アオウミガメがその数を減らした最大の原因は人間による乱獲だった。美味と名高いその肉や卵を求めてのことだ。捕獲が禁止された今、問題となるのは産卵に適した砂浜の激減であろう。海による浸食、川から流れ込む砂の減少、さらに人間の手による開発が追い打ちをかける。無事に産卵できたとしても運命の神様はそんなに優しくはない。卵を狙う動物がいる。孵化後、渚に向かって走る子亀はカニや鳥の餌食だ。海の中も危険が一杯――大魚に飲まれたり、漁網に引っかかったり、有害物質に出会ったり……。幾多の試練を乗り越えて生き延びる確率はわずか数千分の一という。ここに見る個体はまさに奇跡の産物なのだ。

この確率を少しでも上げるために、海岸の環境整備、海水の汚染対策、密漁の厳重な取り締まり、など人間がなすべきことは多い。私たち観光客もウミガメを見てただ楽しむだけでなく、その生息環境の改善に向けて何が出来るかを考える

必要がある。

あれこれ思い巡らしているうちにアオウミガメの食事は終わったと見える。頭をもたげてフワツと浮き、四十五度くらいの角度で離陸した。少し上がったところで大きな前肢を広げ、これを下後方に一回だけ打ち下ろす。そしてここで海底に対する角度を二十度程に減じ、そのまま前方に向かって泳ぎ出した。反らし気味に広げた前肢を打ち下ろして水をかく。かき終わった前肢は甲羅の脇にびったりと付けている。後肢の外縁を進行方向と平行に揃えているので、全体として整った流線型になった。水の抵抗を減らして速く進むための理想の形だ。頭は少し持ち上がっている。視野を広く保つ最適な角度とみえる。

広げた前肢を打ち下ろして力強く水をかく。広げて水をかく。アオウミガメは今、海面下一メートルほどの所をゆつくりと泳いでいる。ゆつくりとはいってもそこはカメ、私の泳力では追い付けない。

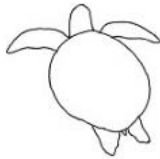
遠さかる後ろ姿を見送ることになった。澄み切った水のおかげでイメージはいつまでも鮮明だ。カメが向かうは西の方。このまま行けば外海に出る。伝説や昔話なら、蓬萊山あるいは竜宮城を目指すとも言いたいところだが、さすがにそれはあるまい。

アオウミガメはベジタリアン、となれば行動範囲はおのずから近海に限られてくる。まあ近海といっても、小笠原諸島から南西諸島まで日本の南の海域は広い。若いウミガメが泳ぎ回るには十分だ。恰好の採食場を求め島から島へと渡る冒険の旅——君は南海のオデュッセイとなる。行く先々でいろんな生き物に出会うことだろう。友達をたくさん作り、大いに遊んで、大いに食べて——いつの日か素敵な伴侶を得るに違いない。

私たちが今度いつ座間味に来られるかわからないが、その時には立派に成長した姿を見たいものだと思う。私が思い描くのは家族を連れ、友達に囲まれながら

楽しそうに泳ぐ君の姿だ。

マウスピースを付けたままで私はそう呟く。いつの間にか妻も水中に降りていった。二人して遠さかるアオウミガメを目で追った。カメは一直線に西へ西へと進んで行く。やがて羽ばたきのような前肢の動きが見えなくなり、体の輪郭もぼやけてきた。それでも眺めていると、その姿は小さな丸となった。その丸もどんどん、どんどん縮小し、最後には、点となって消えてしまった。いつまでも見ていようと心に決めていたのに、いともあっけない別れであった。



あれから一年——秋が来て冬になり、春が訪れ、再び夏が巡ってきた。夏の雲を見ると座間味で過ごした幸せな一日を

思い出す。とびきり明るく青い空、透き通るような水、色とりどりの熱帯魚たち、そして力強いストロークで私たちの前から去って行った若いアオウミガメ……。——君は今、どこかの海を泳いでいるのだろう。

チエーホフを読む（14）

旅中

藤倉 一郎

旅人部屋には四十がらみの背の高い肩幅の広い男が大きなテーブルに肘をついて眠っていた。リハレフという名で貴族会長をしているリハレフの実の弟で、彼自身も地主だったが、さる機会に倒産し、いま娘とある炭坑の監督人となっていく途中である。二人は吹雪にとじこめられて、粗

末な椅子に眠っていたのである。

戸外はすさまじいほど荒れて、狂おしく、猛々しく、野獣のような凶暴な風が窓や屋根をたたき、壁をかきむしりながら、暖炉の煙突に突入した。鳴咽や悲鳴や腹立たしげなうなり声が聞こえた。ドアをきしませて若い小柄な婦人が入ってきた。すっぽり外套にくるまって頭巾をかぶり、一面に雪をかぶっていた。イロワイスカヤという名で、彼女の父は広大な領地を持ちながら、猟犬に熱中して仕事もしないので、彼女ひとりで家政を切り盛りしなければならなかった。

前客の娘と父が言い合いをしていると、イロワイスカヤが、「なんで泣いているの？ いったいどうすればいいの？」と言った。娘がおとなしくなると父と若い娘の会話が始まった。

「実はお嬢さん」男は弁解でもする様に早口に言った。「私たち二晩眠ら

ずに、ひどい馬車に揺られてきたんですよ。だから、娘が加減わるかったです。寂しがったりするのは当然なんです。おまけに、わたしは悪い馭者にあたつて、トランクを盗まれちまうし、吹雪は荒れつぱなしでしょう、こうして座つたまま眠つたんでは疲れ果てますよ。お嬢さん遠くまでいらつしやるんですか？」

「ここから二十キロ離れた自分の領地から来たんですけど、これからうちの農場へ行きますの。父と兄のところへ。ここから十二キロほどですわ。ほんとになんといやなお天気でしょう」

二人はお茶を飲みながら、「知り合つたばかりなのに会話を始めた。リハレフは自分の事を話し始めた。『わたしは無神論者やニヒリストの列に加わっていました。わたしは家族の不幸の元だったんです。母は十五年もわたしが死んだものとあきらめて

いますし、兄たちは病毒のように憎んでおりました。妻はわたしの無分別に苦しみ抜いて、わたしの目の前で死んでいきました。』

女性も男性の奴隷です。今後もうでしよう。実際とるにたらない男性の熱にひかれて女性は髪を短くしたり、家族を棄てたり、異郷で死んでいったりするんです。わたしの記憶の中に完全に残っているのは、思想でもなければさかしげな言葉でもなく、哲学でもなく、運命に対する従順さであり、異常な程の慈愛と寛恕の精神です。あなたは好きな人ができたら、その人について、北極まで行くに違いない。」

話はつづいた。夜が明けて明るくなると、イロワイスカヤは櫓に乗つてでかけた。

彼はもうあと二押し、三押しすれば、この娘は彼の失敗や老境や不運などを、潔く許して、十分考えもせず

に後についてくるに違いないという気がしてきた。その眼は雪の中に消えていく櫓の跡をみつめながら何かを探していた。

吹雪のすさまじい様子が細かく描写され、真に迫り旅人の孤独がひしひしと伝わってくる。娘と二人で見知らぬ炭坑へ仕事に出かけるリハレルの心情はまだ女性に対して、かなり関心がある。

この作品に対して「泥沼」に辛辣な感想をおくった、キセリヨウワ夫人も、これこそチェーホフらしい素晴らしい作品であると絶賛している。

「やばい」は困る

鈴木 啓之

テレビのバラエティー番組などで

出演者がよく「やばい」と言う。「困った」「しまった」「あぶない」などと言っているらしい。さらに「美味しい」にも「やばい」をつかう。「とても美味しい」が「超やばい」となる。ひっきりなしに「やばいやばい」を連発する出演者もいる。この「やばい」がとても耳障りなのだ。

「やばい」は柄の悪い下品な隠語で、私がまだ高校生であった昭和30年ごろにもワルを気取った学生などが使っていた。当時は戦後の殺伐とした状況がまだ残っていて、通学の乗換駅であった渋谷の駅前や道玄坂には白のスーツやアロハシャツのクラシカルなスタイルのその道のひとが跋扈していた。そんなひとたちが使う言葉が、つっぱり学生たちの間に伝播したようだ。「やばい」は公の場や目上の人のまえで使うのは憚られる言葉であった。「やばい」と聞くと往時のすさんだ世相に直結するの

である。

今年のことであるが、池上彰氏の司会と解説で、天皇のご退位に関するテレビ番組が放映された。放送のなかで氏が「ひよつとするとこの番組を陛下もご覧になっておられるかもしれませんよ」と言ったところ、女性の出演者のひとりが「エッ、やばい」と言ったので思わずドキッとした。池上氏は即座に「やばいなどと言っではいけません」とたしなめられたのでホッとした。言った本人は「そうだとしたら困ったな」程度の意味で使ったのであろう。

「やばい」は放送禁止用語ではないので、電波に乗って日本中に拡散し今では日常に使われている。若い人にとっては口調のよさがあるのかもしれない。最近ドラマのセリフにも登場し、コマーシャルや本の題名にも使われている。

広辞苑で「やばい」を引くと「不都

合である、危険である」とあり、例文として「やばい事になる」と記されている。ネガティブな意味合いが強い。

「やばい」の語源を探ってみた。江戸時代にまでさかのぼる。アウトローの世界で牢屋や看守を「厄場(やば)」とよんでいた。それに「い」がついて「やばい」と形容詞になり、「危ない」とか「危険な」をあらわす隠語になったという説が有力のようだ。90年代に「やばい」が「すごい」「おどろいた」と肯定的な意味にも使われはじめ、ますます広まったようだ。

言葉は時代とともに意味も使われ方も変わるのわかる。とはいえテレビ番組で出演者たちがアウトロー世界に生まれた隠語である「やばい」を連発すると、とんに柄の悪さ、下品さを感じて気持ちが悪くなる。とりわけ女性の「やばい」は聞き苦しく興醒めである。「やばい」はいまや誰もが普通に使う日本語となりつつあ

るようだ。しかし「やばい」の横行を苦々しく思っている人間もいることを記しておきたい。

和紙の事

河鍋 楠美

昨年の熊本地震における未曾有の被害は、度々テレビでも報じられている。

熊本城をはじめ、文化財も相当な被害を受けているとの情報で心配している。2011年「3・11」の東日本大震災の地震と津波の被害は、未だ収束しておらず、その時も周辺美術館の被害は相当であった。それでも5年でもようやく修復がなり、昨年、東京藝術大学美術館で、「いま、被災地から―岩手・宮城・福島―」という展覧会が5月17日から6月26

日に開催されるまでに回復したことは喜ばしい。ただ、修復に並々ならぬ労力と経費がかかったであろうことは、想像に難くない。

昨年の熊本地震においても然りであろう。2度も震度7の激震にみまわれ、難攻不落を誇る熊本城も大打撃を受けた。その復興には数年かかると言われており、熊本県立美術館も40周年を記念して始まったばかりの「大熊本県立美術館展」を中止しなければならぬほどだったと聞く。この県立美術館には、今西コレクシヨンとして暁斎の作品も4点所蔵されているが、どうなったか、まだ確認していない。

災害が無くても修復事業は美術館における重要な部門である。油絵の修復は日本画に比較して手がかからないだろうと考えていたが、ルーヴル美術館修復部の作業を見て、これ程大変なこととは、と驚いたことが

ある。日本の古美術や古書の修復部を見学した時には、平安時代の古文書の修復作業中であつたが、大人数でその作業を行っていたが、あと何年かかるか気の遠くなるような話であるとのことだった。華やかな展示の陰で、こうした裏方の作業は重要だ。

展覧会の場合、肉筆作品は1ヶ月、版画作品なら2週間と展示期間を制限しているにも関わらず、当館でも外部の大きな展覧会へ出品した後は、手入れを必要とする作品がある。デパートの展示では作品を撤去した後壁に、額縁の痕が残ると言う。つまり、作品がそれほどの量の有害な光線に曝されていることを意味し、名のある美術館、特に海外の美術館は、相当前から出品を拒否している。多色摺りの錦絵は退色が甚だしく、初摺、後摺の違いのみならず、初摺の色で論争が起きるほどである。それは

ど繊細な色彩の錦絵は、2週間展示したら6ヶ月光をいっさい当てず寝かさないと色が保てない事をご存じない方が多い。

和紙に関しても今ピンチに直面している。暁斎の明治時代、暁翠の大正時代と現在の和紙とを比較しただけでも差は歴然としている。人間国宝の漉き和紙は手に入り難いし、それでも、昔の和紙には敵わないと言う。原料そのものの変化もあるし、漉き手の確保もままならずとのこと、何事も「一日にしてならず」である。

魔性の研究成果

八潮 弘三郎

三人は久しぶりの再会を祝った。三人で食事をするようになってかれこれ十年になる。今日は本八幡にあ

る京料理のお店でご自慢のコース料理を頂くことになった。私の職場は東京、岡田は埼玉そして間島は千葉なので、三人が集まりやすいのは総武線沿線となる。何時ぞや間島の仲間の同級生に予約を頼んで四人でプチ同窓会をと思ったたら、知っている人しかたどり着けない外に看板がないお店を予約してしまい、しかもその日は土砂降り、岡田から場所がわかりにくいとメールで連絡はもらっていたが、遅れて到着することになった。私もお店探しは難航し、すっかり濡れネズミになってしまった。それに懲りて会食の場所はたどり着くのにわかりやすいことが暗黙の要件となっていた。このお店はわかりやすい。駅前を線路沿いに左に曲がる道さえ間違えなければお店の照明が遠くからでもぼんやり暗闇に光って見えてわかりやすい。岡田は三人会の会合にはいつも慎重で早々に街

に入り、場所を確認して近くで時間を調整してから会場に現れる。前回の看板のないお店の時も、三十分ほど前に場所を探してから、分りにくいというメールを私にくれていた。

彼は約束の時間をめったなことでは外さない。約束の時間と言え、私の元の上司はやたらに時間前に居ることをモットーにしていたように思う。

岡田が私の上司と違う点は到着の時間を調整することだ。時間調整せずに集合場所に上のものが現れてしまうと部下たちは更に早く集合することになってしまう。余裕を持って時間前に集合することはよい習慣ではあるが、度が過ぎると周囲の負担になる。

私も現地到着は十五分から十分前位が適当と思い、場所を確認してから近くで時間調整をしながら集合場所に行くことにしている。恐らくこの自分の身体に染み付いた職場での

早すぎる集合のアンチテーゼなのだと思うが、三人会では時間のちよつと前を目指している移動しているつもりであるが、いつも時間を読み違えてしまう。三人会には必ずと言っているいほど電車の遅延が重なり、私の到着が約束の時間より少し遅れてしまう。フロイトは錯誤行為には意味があると指摘している。僕の無意識に心に傷が染み付き、錯誤行為として見え隠れしているようだ。かつての上司への反発の気持ちは無意識に押し込められ、私の心の傷は癒えていないようだ。

三人は東都大学の医学生時代からつるんでいたわけではない。誰決めることもなく、大学残留者が同窓会の幹事をするようなことになり、連絡を取り合うようになったことがきっかけだったように思う。同期の入学とはいっても年齢は少しばらつきがある。皆が医療の仕事の最前線に

いた時は、それぞれに年に差があることには気が付かなかった。医者になって三十五年も経つと、定年のセレモニーの招待状や挨拶状が届くようになる。定年は暦年齢で決められているので、同期であっても迎える期日は不揃いになっていることで、年齢がばらついていることに気が付く。定年は世間的には還暦と重なる。定年と還暦は私にとっては仕事と人生の区切りとして特別な意味があると思っている。岡田も間島も僕より先に還暦を祝ってもらっていた。

私の勤務している医科大学の定年は六十歳である。ただ教授職だけは六十五歳が定年ということになっている。かつて四半世紀前の東都大学では男女の定年の年が違っていた。女性性は五十五歳が定年であった。私たちの卒業証書は東都大学医学部初の女性の医学部長から頂いた。その医学部長も女性五十五歳定年ルール

で、私たちの卒業後程なく退職して
いたことを後から知った。男性教員
はというと当時から今と同じ六十歳
であった。この旧態の男女が平等で
ない制度は適切でないと当時の理事
会で提言した女性教授がいた。前島
先生である。彼女は男女の定年の年
齢が異なるのは憲法の理念に照らし
ても適切でないルールだと主張した。
彼女は男女の定年に五年の差がある
根拠がないと迫った。すると当時の
理事であった基礎医学の教授が、今
では信じられないことであるが、年
齢差には根拠も意味もあると論文を
示しながら主張した。女性の方が早
く老化するという論文を示し、社会
的に生活している男性と、家庭に生
活している女性とを比べて女性のほ
うが早く老化するという論旨が示さ
れた。この論旨が誤りであったこと
はその後の健康寿命の推移をみても
どちらが早く老化するかは明らかに

なった。しかし当時は女性が圧倒的
に長寿であり健康寿命も長いことに
皆が合意している時代ではなかった
ので、理事会では男女の生物学的特
性について論争せずに、「天は人の上
に人を造らず、人の下に人を造らず
と言えり」と彼女は主張した。女性の
定年を五十五歳から六十歳にするこ
とができないのなら、男性を五十五
歳定年にして同じにして欲しいとも
主張した。それ以上反論は展開せず、
結局現在も運用されている男女とも
六十歳となったという。随分前の東
都大学の理事会でそういうことがあ
ったことを私は晩年の彼女から聞い
ていた。東都大学の運営に携わって
いた封建的と考えられる理事たちの
中には非差別的な考えを持って新し
い道を歩もうとすることを是とする
ものも彼女だけではなかった。東都
大学では女性の定年が延長され、定
年における男女の区別が早い段階で

解消された。東都大学の任用等の制
度改革は途にすらついていなかった
頃、差別なく平等であることを希求
し推進した人がいたということ自体
誇りでもあり驚きでもある。前島先
生のお話を伺ってから、東都大学の
教授である私は六十歳が定年である
と認識していた。大学運営に携わっ
ていると、役職者は三年おきに改選
がある。二期務めるのが通例になっ
ているので、二期目の役員の継続は
自然の流れのようになっていて、私
を含む全ての役員が再任された。私
は六十歳定年の区切りを根拠に繰り
返し職を辞したいと主張したが、全
く相手にされず、私は未だ役職を務
めている。また教授定年の六十五歳
を受け入れて職に留まっていること
自体が恥ずべきことであると心を痛
めつつも現職を全うしている葛藤を
抱えている。私の還暦と定年へのこ
だわりから最後の取り組みは不平等

の撤廃を目指した研究支援と男女共同をテーマにした。勿論岡田も間島も私の還暦定年論理を受け入れてくれているわけではない。

「医者として仕事をしてみると、よどみなく医師のライセンスを取得したことについては自分にとってはある意味当然と思つて進んできたが、色々転んだ人生を歩んだ医療を受ける側にいる人たちの治療を担当するにあつて、自分が学業でよどみを経験していないことがハンデだと感じるようになっていく。入学時の浪人、進級できないこと、卒業試験が上手くないことそして医師国家試験がスムーズに通らないことなどなら自分にとっては必要であつたと感じていく。」と私が還暦の意味と同じように医者の始まりの年齢についてのこだわりを最初のビールに口をつけながら続けた。

そうしたら岡田は私に向かつて話

しはじめた。

「君は自分のプロセスを僕たち二人に話したことを忘れているのではないかな？この三人の会でも君が入学後にアパシーになつたことを話してくれていたではないか？一年と二年の医学部進学過程の時、学校の門をくぐるまではできるが教室に入つて授業は受けることができない日々が続いたことを教えてくれた。そして進学過程の主要科目であり、出席が単位取得に必須であつた語学のほとんどは追再試験にまわり三年の専門課程への進級前の三月は毎日毎日単位認定試験漬けになつてしまったことを僕は君から聞いてよく覚えてるよ。僕たちは君からその話を聞くまで、君がそんな悩みがあつたなんて、知らなかったし、君もそんなに苦境なく生きてきたわけではない。」とちよつと遠くを見るように言った。

私の親友の二人は私のちよつと先

を生きている中年期からの人生の師匠でもある。岡田は内科を専攻し、大学で准教授まで昇格していた。理不尽な教授選に巻き込まれ十年くらい前に大学を退職している。大変な職業アイデンティティーのクライシスを乗り越えている。間島は外科が専攻で研究にはあまり関わらず臨床一筋で大学での仕事を続けた。昇格は研究論文のみが評価されるので職位は助教のままであつた。助教のままで五十歳を超えて在籍していると後輩の昇格の妨げになると考えたのであろう、大学を退職している。私は医学の周辺分野を専攻したこともあつて、他の領域では当たり前のことを論文を刊行してもオリジナリティと認められるので、教授の資格を得て、還暦を過ぎても大学の管理業務に携わっている。学者医者としての人生を甘く生きてきたと思ひ、二人に会うといつも自分の生き様を振り返り恥か

しいと思う。さっきの岡田のコメントを聞き、自分の持つこだわりを益々恥ずかしく思った。

「この前先原君からメールもらって、今度のクラス会はいつか？と聞いてきたよ。以前彼の地元に行ってきたよ。」と間島が言った。彼は学生時代男子寮に入って通学していたこともあり、クラスの中では皆に慕われ顔が広い。

「クラス会はやったばかりだからなあ。楽しかったからなあ。次が楽しみだという意味だね。」と私が相槌をうった。

「先原君と言えば、この前の同窓会の二次会でベロベロに酔っぱらってから、研究のいじめの話をしてくれたよな。本当なら酷い話だな。」間島は岡田が先原君の話を知らなかったのので、伝え聞いた同級生の苦勞を話しはじめた。

先原君はクラスの中でも目立った

秀才であった。しかし大学時代の医学生としての医学の習得にはあまり興味がなかったように思う。東都大卒業後父親のクリニックを継いで仕事をする方向で次の段取りを組み立て、地元の医大の産婦人科で研修しておいた方が病診連携には有利だと考えたのだと思う。県立の名門の大倉医大に入局した。大倉医大には開学以来の充分な歴史があるので、大分以前から卒業生が指導層になっている。出身校の幹部候補生たちが優遇されている体制になっていることは私も知っていた。従って私学である東都大学の出身である先原君は産婦人科の臨床研修においても横に置かれていたようだ。二年目になるとそれぞれが研究班に所属し研究テーマを持ってブースが与えられ研究を始める習慣になっていた。しかし彼には研究班も研究テーマも研究ブースも与えられなかった。同級生が

始めたばかりの研究の話題で持ちきりであったので、研究には興味はなかったが何か自分もやってみようかと思った。しかしテーマも場所もない状態で、どうすれば実験ができるかを考え、自分の身体を使って調べれば場所も実験器具も要らないので、自分の血液を使って実験を始めることにしたと彼は話した。今まで作られたことのない抗体を作ろうと考えた。普通はまず実験器具の中で試してみることになる。しかし彼は実験台を貰っていないので、ビトロでのチャレンジすることはできない。そこで自分の身体に注射して抗体を作ってみることにしたというのである。随分大胆なことを思いついたものである。後でわかったことだが、この抗体はビボでしかできないものであったことがわかった。しかもヒトの身体でないと抗体ができないことも後でわかった。彼は他に方法がなかつ

たので自分の身体で作ったに過ぎなかった。これが世界で初めての抗体を作る大発見のきっかけとなった。

現在でも広く用いられていて、学会でもすぐに話題となり、国際的な賞も頂くことになった。朝日新聞の時の人にも取り上げられた。掲載された雑誌も私がたまにしか手に取ることとしない最高峰の研究雑誌であった。研究のトピックスの記事を読んでいると発見したのは同級生のホープであつた先原君であることに気が付いた。記事を読んでいるうちに誇らしく思った。それと同時に自分も地味な領域の地味な研究をしているが、きつと新聞に取り上げられることはないだろうなと思ひ、ちよつと羨ましくも思つた。

間島は「ここからが凄いのよ」と続けた。彼の所には抗体作成の快挙のニュースに反応して世界から共同研究の招待状が複数舞い込んだ。産婦

人科のお父さんのクリニックを継がずに研究を続けていくのも悪くないなと思ひ始めていると同時に、同級生から口をきいてもらえなくなった。実験室のスリッパを不用意に履いた時棘が刺さつたと思つたが、棘ではなく金属の画鋲であつた。だんだん当直の時の習慣であつた医局に届く出前での食事をすることも怖くなつてきた。研究は教授に渡し、早々に医局を退出した。

私は改めて間島から岡田への説明を聞いて、彼がスパツと大学を辞め、研究も止めてしまつたことがすごいと思つた。ラグビーでもラックになつてボールが動かなくなると、モールを作つて倒れたものはボールを放すことになつてゐる。まさしくタックルを受け、モールの中ではレフエリーに見えない反則行為を受けていたが、ルール通りに彼はモールの中ボールを放したことになる。彼の手

から離れたボールは、今なおパスが続き、大倉医大の研究班は何度もトライを重ね得点を重ね研究をリードしている。研究者は自然の摂理の一部にたまたま遭遇する偶然に立ち会い、英知によつて、啓示を受け取り、発見者となる。そして発見者はその発見を次世代に委ねる。自分はそれを媒介しただけと位置付ける。私は発見と研究者との本来あるべき関係を見せてもらつたような気がして、間島の話に小さく感動した。

先原は命の危険を感じて医局をでて、父親がはじめたクリニックで診療を始めることになるが、彼の如才なさとは正確な見立てと治療が評判を呼び、クリニックは繁盛していった。時間に余裕ができたところで、ランの栽培を始めた。彼によればランは遺伝子による交配操作そのもので新種ができるものらしい。彼は研究で發揮した英知を駆使したのであろう。

新種の作成に成功し彼の家族の名前をつけた新品種を次々に創作し、現在では展示会の審査員を務めるまでになっている。ランの新品種の開発は彼が大学で行っている医学の研究と通じる創造性を感じた。ランならば嫉妬深い医者たちから攻撃を受けることもなく、彼に身の危険はなさそうである。

私は間島の話しを聞き、自分の所属していた教室の周辺でもこれほど露骨でひどくはなかったが、似たような研究に対する陰性の行動はあったと思った。研究が大学での昇格に必要なものであることは中堅の医員たちは皆知っていた。同列で横並びのはずが誰かが階段を一步でも登りそうになると、周辺が懸命になって階段を登れないように工夫する。私の所属していた内科の中堅の医員が二年間の研究留学から帰国した時、それまでこなししていない義務の出張

を命じられた。そして関連する病院の中で最も時間の余裕のない施設への出張が命じられそのまま研究が二年ストップした。いや二年だけではない。その後すぐに研究が再開できるわけではないので、三年猶予の遅延となった。また文部科学省の科学研究費補助金による研究資金の調達には五倍の倍率と言われている。私学では十数倍と計算されている。その十倍以上の狭き門をクリアして研究資金をゲットできた別の中堅の医員は半年余り後関連病院への長期の出張を命じられた。基礎の教室との共同でないとできない研究であった。しかし片道切符だったようで、その後彼は大学の教室に戻ることはなかった。これもラグビーの試合でいえばモールの中でのレフェリーに見えないようにして行われた反則行為である。このような愚劣な処遇を繰り返していったら、研究を司る創造主に

は笑われてしまう。

次の料理が運ばれてきた。御椀物である。季節に合わせてしんじょう揚げに枝豆がちりばめてある。鰻が添えてあるようにみえる。細かく切れ目の入った白身が鮮やかだ。

間島は自分の思いを話し終えたとばかり、料理に見入っている。すぐにも食べたそうである。その状況をみて、ビールを煽って、今度は岡田が話し出した。

「これは所属の医局の恥だと思うし、医学研究の冒涇だと思うが、今の先原の話しを聞いていたら、話したくなかったよ。君も知っているだろう？」と私の方をみた。

私の頭にすぐに浮かんだのは三ノ宮君からの相談であった。岡田もこのことの相談を受けていたのかと思いつながら、同級生の三ノ宮君から相談を受けたことを話しはじめた。

彼女がご主人の留学に一緒にヨ―

ロッパへ行き、留学先から帰ってきて、大学で研究データをまとめていた。私は外国留学するあてもなく大学一号館の六階の研究室で寝泊まりしていた。大学の研究室は丑三つ時になると、実験のケージから逃げ出したのかもしれないネズミたちが繁殖して、我が物顔でどたどた走り回っている。こっちが研究室で寝ていると、寝静まったころ様子を見に来る。私はネズミに顔を舐められたことがあり、ビックリして目を覚ましたら、ドタドタとまた逃げていった。食べ物には困らない事情があるのであろうどの動物たちもまるまると太っている。私の所属していた研究グループは動物実験をしていなかった。で文献と紙書きのデータが積んである部屋で作業していた。当時電気で動く時計があつて、ランプがついていることもあつて若干ではあるが熱を発生している。その熱に反応し

て当時研究棟に大量に生息していた大型のゴキブリが回転部分に挟まってしまい、丁度その死骸が時間を表示するパネルの前から透いて見えていた。時計は何とか時を刻んではいたが余り素敵な置物にはなっていなかった。紙を広げて作業をしていて、作業途中でそのまま机に紙を広げたままにして翌日になって仕事を再開しようとすると思われ、恐らくゴキブリのものと思われる排せつ物が散在して集計用紙はザラザラになってしまう。臨床の研究室はそんな実験動物たちと共存している不潔きわまらない窓のない密閉の空間であつた。彼女はそういう環境には似つかわしくない雰囲気を持った同級生であつた。学生時代も彼女の周りは華やかで、確か所属していたクラブもゴルフ部だつたと思う。私とはどう考えても接点が見いだせない存在であつた。私は実験動物たちと共に過ぐす

研究棟六階の住人でもあつたので、データ整理の作業の場として彼女も研究室を使っていたようで、研究棟の廊下で時にすれ違つたりしていた。彼女が折り入って聞いてもらっていたことがあると私に電話がかかってきたので、あまり親しくはないが大学六年間の同級生でもあり同時入局の仲間であることには変わりなく、何事かとも思つたので、すぐに相談に応じることにした。丁度医局で仕事をしていたので、そこではどうかと尋ねたら、もつと人のいないところがいいというので、ちよつと心配になり、人事のことかなと思ひ、この時間帯は誰も使っていない夜の外来診療室で、話を聞くことにした。丁度この時期、同級生たちが初めての研究作業を始めたところで、医局の外メンバーも研究班からテーマをもらつてデータを集計したり、簡単な実験を始めたりにしていた。彼女もこ

主人の留学で、同級生と同じタイミングではなかったが、テーマをもらい、研究に取り組んでいたようであった。上手くデータがまとまれば学位に結びつく。彼女の学生時代の華やかなイメージとは裏腹に、心療内科の診察室に入ってきた彼女はいつも私がこの場所で診察している心理的問題を抱えている方々と変わらない雰囲気が漂っていた。

「どうしたの？」と開放的な質問をしてみた。相手の様子がわからない時はこの質問方法に限る。

「君は大学院に進学していたし、もう最初の研究はできあがっているよね。私は今初めの研究論文を書き始めたところなの。」と話しはじめた。どうやら研究に関することらしいと思つて、ちよつとホツとした。私の専攻は心療内科なので、カウンセリングを知り合いから求められることはしばしばある。自身のパートナーと

上手く行っていない話しや自分が服用している向精神薬の使い方などのことが多く、ヒトのところがかわる深刻なものが少なくない。ヒトとモノとを分けるとすると研究はモノに当たるので、ヒトに関わるものほどさほど深刻でないことが多いので、ちよつと安心して話を聞き始めていた。

しかし彼女の話しは仰天するような内容であった。彼女が数か月かけて教室で扱った入院患者のデータを集計し、簡単な統計処理をした結果を教授に見てもらった。そうしたら教授から君の集計結果はA群とB群を入れ違えている。そうでないと論文の考案で理屈に合わなくなる。君の集計が間違っているの、入れ替えてデータを整理し直しなさいと言われたのである。

私はわが耳を疑い、彼女が見せたというのは海石教授だなあと思つた。

海石教授がデータを簡単に入れ替えるなんて言うかなあと、俄かには信じられない気持ちであつた。

私はその当時心療内科で駆け出しの外來診療を担当していたので、来診の患者さんが存在しない話しの主人公になつて悲嘆しているというケースにも遭遇していた。初めて相談を受けたときは自分でも驚いたのでよく覚えていた。二十代の女性だったと思う。母親が娘の状態を心配して遠方から専門の心療内科を探し出し来診した。娘が将来結婚しようと約束していた方が急に不慮の事故で亡くなつてしまつたと娘から聞いた。一週間たつても十日たつても娘に元気が出てこないの、治療が必要と思ひ相談に来たと経緯を話した。母親が話した娘さんの病態には対象喪失という名前がついている。精神障害としての疾病のカテゴリーからはちよつと別扱いとなつており病氣

ではなく、状況に対する反応である
と理解されている。抑うつ状態が
続くことになるが、抑うつ状態から
脱するには少し時間がかかると考
えられている。その前に通過しな
くはならない悲嘆の時期はその後
に元気になるためには必要なフ
ーズだと説明した。あまり効果は
期待できないが気持ちを安定させ、
よく寝てよく食べられるように
と状態を補助する薬を出し二週間
後次の診察とした。一週間くらい
後に、同席した母親から動転した
ように私に電話があり、相談され
た。母親が言うには亡くなった
はずの彼氏と夕べ娘が楽しそうに
歩いていたのを見たというのであ
る。はじめは目を疑い別人か目の
錯覚かとも思ったが、見違えたの
ではないことが判った。母親は一
体どうゆうことが起こっているの
かと私に尋ねた。私も話しの顛末
にびっくりしたが、心的現実とい
う概念

があり、うつつのことではないが、
その人の心にとっては彼氏が亡く
なったと考えるに真実性があると
受け取ることにあたるのではない
かと伝えた。

彼女の話しにはわかには信じが
たい心療内科の来診患者と同様に
心的現実だったのではないかとす
ら思った。彼女はご主人との外国
留学の経緯のことから教授との
折り合いが余り良くはなかった
ように聞いていたので、私は心療
内科を受診した娘さんのように、
彼女の心の中で話さねじ曲がっ
てしまったのかもしれないとすら
思った。彼女は話を続け、自分の
脳はさほど聡明な方だとは思っ
ていない。しかしいくら自分が聡
明でないとは言ってもA群とB群
を間違えるほど愚かではないと思
っている。ここはグツと我慢して、
データを教授の指示通り入れ替
えて論文に記載した方がいいの
だろうか？と続

けた。学会誌に投稿するための
論文は殆どできていて、教授が
指摘のデータを入れ替えて、結
論を裏返しにすればすぐにも
投稿できるまでに出る上が
ついているという。

私は彼女の話しがあまりにも突
飛に思えたので、相談の返事を
保留して、同じ内科の別の研
究グループの中堅の指導者で
あり、ご意見番でもあった井
上先生に相談した。以前彼が
私の臨床の指導をしてくれて
いたこともあって、また私の
研究の軌道修正についても提
案をいただいていた。私も比
較的忠実に彼からのアドバイ
スを取り入れていた。そんな
こともあって領域や研究手法
は全く異なっているにもかかわらず
私が作製する研究論文にも
よくアドバイスをくれていた。
井上先生は「三ノ宮君の研究
論文のことは全く知らない。教
授と彼女との間だけで行われ
ているのではないかと教えて
くれた。彼女の相談して

くれた研究データの入替えの指示がもし起こっているのなら密室であることがわかった。井上先生に相談した後、彼女は外来診療で遭遇した娘さんのように気持ちが混乱したのではないかと瞬間心配になったが、教授と彼女しかみていないデータだとすると海石教授から論文として整合性が取れるようにデータの入替えを指示するということは十分に起こりうると思った。

私なりに彼女には、別の類縁のデータで有意差を求めてはどうかと提案してみた。すると彼女は「自分の将来については大学で研究をしながら臨床をやっていくという風には考えてはいない。夫は大学に残りたいと思うているようだが、自分は机に向かう研究の作業は医学部での勉強に似ていて嫌いなもの。研究としての集計をやってはみたものの、性格的にも探索していくという思考過程は全

然合わない」と話した。教授から君が間違えていると入れ替えを持ち掛けられたことも彼女の研究への意欲を削ぐ気持ちを助長したことは間違いない。その後私と彼女の間では、A群とB群を入れ替えて論文を仕上げるという方向の相談は以降私との間では話し合われなかった。その後程なく、彼女は学位のための研究論文は提出せずに教室を辞めた。その後彼女とは私は今も交流があり、御菓子を送ってくれたり出張先から私が名産品送ったりしているが、改めてこの出来事について話したことはない。彼女にとってはお忘れたい事だったに違いないと思う。」と私は締めくくった。

岡田は目をつぶって黙って聞いていたが、「君が話してくれた三ノ宮君の話は初耳だなあ。随分乱暴な話しかけど、海石教授ならそんなこともあるかもしれないと思って聞いて

いたよ。」と話しを受け取ってくれた。彼も研究で苦労してきたことは私もよく知っている。准教授時代、学外からの自分の関係者を教授にするため、彼や彼の周辺の研究をストップさせ論文の刊行を抑制し、急に現教授である自分が計画していたように辞めることになり、次期教授選考のために開かれる教授選考会への評価対象論文の準備ができないように仕組まれていた。仕組まれたと気が付いた時は、時すでに遅しであった。彼は腹を立てすぐにも大学を辞めたいと私に言った。彼の前任教授への怒りはいかばかりであったかはかり知れない。彼はそれ以来続けてきた自分の研究を発展させることを止めた。彼が初学の頃行った臨床研究の中で、透析患者さんが繰り返し原因不明の失神を繰り返す症例を担当し、失神の原因が低血糖発作だということを突き止めさらにACTH分泌の部分欠

損であることを明かにした症例研究があった。私はすぐ横で彼の大学病院ならではの論理的に検索を尽くした臨床的探究を見ていた。創造主に、「よく見つけたね」と褒めてもらえようような発見をしたと思った。しかし彼の知らぬ間に彼に対抗するグループの研究は評価対象論文を揃えることだけが目的で、その成果を自分たちの大学教授への階段として使うための論文だったと私は思う。さらに論文というものは誰が書いたのかは本当のところはわからない。特にグループで研究をしていると、一人に業績を集めようとすれば内部告発さえなければ、ある特定の人物に業績を集中させることはできる。岡田が巻き込まれ降ってわいたように起こった教授選だけのことではない。私の知っている幾多の人々が研究論文を道具に大学教授を手に入れるために研究を行なっていた。こんな医

学研究が行われていくことがあるのなら、科学の創造主にこっぴどく叱られてしまう。岡田は私が話した三ノ宮君の話しは、彼が話そうと思っていたことではなかったようではあったが大いに関連していて、私が意を得たりと思えたようであった。

「僕が話そうかなと思いついたのはやはり海石教授に関係していそうなことなのだけれど、密室で本当のこととはよくわからないし、関係者も学外に広がるのを恐れてか、口をつぐんでいる。研究を担当していたものは教室を辞め、そのため研究も進まなくなってしまった。この前久しぶりに開かれた教室の同門会でも教授が「研究では皆さんに大変なご迷惑をおかけした」というような趣旨のスピーチをしていた。抽象的な切り出したので何を指して言ったのかはよくは判らなかつたが彼が医局そして医局員に何らかのご迷惑をか

けたと思えるようなことがあった証ではあった。四半世紀が経過し懺悔したくなつたのかもしれない。どうかかな？」と岡田にしては珍しく、歯切れ悪く話した。

岡田の話しは次の通りである。ある止血のメカニズムに関する中間物質を学内の線溶系の動態の研究を専門とする基礎の教室と連携して盛んに代謝性の疾患で測定し新知見を提示していた。凝固活性が亢進している状態は血栓性の病態が捉えられる遙か早期に変化をキャッチすることができると、病態の早期評価の指標として注目されていた。グループの講師手前の中堅の医員が中心となつて研究をすすめていた。内科の分野全体を専門として網羅している総合的内科の大きい教室であつたので、五つも六つもあつた研究班が研究の成果を年末に数時間かけて発表する。その折発展性のある指標がきれいな

形で有意差をもって示され、私自身が彼らのグループの説明に科学的に説得されたことをよく覚えている。

もつといえど私が示す予定のデータは全く理屈通りにはならず、出るはずの有意差も十%の傾向しか認めることが出来なかった。つまりデータ発表会では研究としては惨憺たる結果を発表しなければならぬものになってしまっていた。その時どうしてこんなにも理論に沿った実証データができるのかと科学的論理性への羨望を感じた。彼らの研究ラインが羨ましかった。その後データ解析の中心にいた二人の医員は研究から離れていた。一人は教室の関連病院の内科部門の責任者として出張となり、もう一人は大学の分院の専門の部門の一人医長で出向になった。近接の領域の研究者から、このグループのデータの追試ができないと指摘されたことに充分反論できなかったとい

う話しを風の便りに聞いた。追試ができない指摘が痛手だったのか、主要な研究班のメンバーが抜けたためなのか、それらが組み合わさった複合的要因だったのか、それとも単に結果だったのか、更に知られざる要素があつたのか、その後ある時点に境にデータが途切れた。さらにその研究グループでは番頭格の井上先生が准教授から教授に昇格していた。

彼の研究領域は凝固系を扱った研究のラインとは少し違う臨床や研究の領域を進めておられた。厳格ではあるが周囲に信用されていた教室内の臨床研究の重鎮であつた井上先生が精神に変調をきたしたということで、昇格後しばらくして突然彼は教授を辞任した。当時の研究班のメンバーは全て離散し次の世代がグループを運営することができなくなるまでになった。時を置いた久々の同門会で当時の責任者が謝罪し懺悔していた

のだから、彼が何らかの関与があつたと推測することはそんなに外れたことではないのかもしれない。

岡田は自分には分からないが、間島が話した先原君の話しや私が話した三ノ宮君の話しを聞いて、隣の研究グループの中で起こっていたかもしれない懸念を二人に話してみようかと思つたようだ。しかし確かなことは闇に葬られてしまい、事実関係が風化してしまっている。彼がエピソードを掘り起こしてくれたので、そうかもしれない出来事を思い出した。これらの闇が明らかになることはもうないであろう。改めて思い出したくない記憶であるが、太平洋戦争の現場でのエピソードと同様に、知りたくはないが、そのまま蓋をしてはいけない出来事であつたと思つた。このまま闇にほうむることをきつと研究を司る創造主はお許しにならない。私は岡田の話しを聞き、大学

に残り、研究を管理する仕事を請け負っているものとして重荷を背負ってしまったような思いがした。

私は月に一回外勤でかかわっていた急性期病院が老健を併設したので、回診に行っている。そして入所されているメンタルに安定していない方を診察している。昼と夜が逆転してしまう、せん妄という軽い意識障害の病態が時々起こる。興奮状態にある中、私が症状についての問診を始めるると会社の監査室にでも説明しているかのように、「この件私は関係していないと繰り返し申し上げたい。」と強い口調で話されている高齢者に遭遇したことがある。強い口調で話されたのでちよつとびっくりした。自分の記憶に強く残る傷のようなものは、自分だけに残る取れない棘のようなもので、脳の中に強く刻まれると思った。そしてその取れない棘の記憶が時に外在化してくる。私も

出席していた医局の同門会で、私はこんなエピソード想起していた。

研究のネガティブな側面ばかりが話されていたが、医学に関する研究のロールモデルになるべき方ももちろん存在している。すぐに思い浮かぶ指導者が前島先生である。前島先生は病める人たちのために、全ての生活が組み立てられていると言っても言い過ぎではない生涯を送られたと思うている。加えて未知への探索としての研究以外にもたくさんの医学・医療の周辺に少なからず不平等や不条理が存在することも教えて頂いた。

私が最初に先生と言葉を交わすことができたのは医学部入試の面接の時であった。私立の医学部の入試には今でも必ず面接が組み込まれている。当時高校三年生であった私は、数学や物理・化学は得意であったが、医学や医療のことは自分が病気になる

診療を受けた経験しか触れるチャンスはなく医学部は何をするところか皆目わからなかった。面接試験の折何も知らないくせに、私は生意気にも医学研究を志したいというようなことを言った様に記憶している。その時先生は諭すように「研究者は大変だからねえ」とつぶやくようにコメントしてくれた。まさか先生が世界的に研究者であったとは考えても及ばなかった。その後先生に直接お声をかけていただくチャンスはなく数年が過ぎた。先生が世界をリードする研究者であることを知るのは医学部四年で講義・実習で初めて先生からの教育を受けて以降のことである。時々先生のお部屋にお邪魔させていただくようになっていた。先生に学生の分際でご相談にあがっていた理由は今から思えば恥ずかしい限りであるが、当時医学部には免疫学の講義は独立しては存在していなく

病理学、血清学、小児科学、膠原病学に散在していた。また細胞性免疫をつかさどるT細胞と免疫グロブリンを産生するB細胞とが区別する方法すらなかなか確立していなかった免疫学の創成期であった。確か免疫グロブリンのアミノ酸の一次構造も完全には明らかになっていなかった。私は免疫学の計り知れない可能性に魅力を感じ、体系的に免疫学を学んでみたいと思い、先生に相談に行った。あとで述べるように前島先生は緑膿菌に代表される細菌学と化学療法の大重鎮であったのだが、私が興味があつた免疫学の学体系を整理していたわけではなかった。教室の血清学を専攻していた准教授を紹介してもらい、自主的に運営する一連の講義を企画し何人かの仲間と共に運営していた。学生の最大の関心である進級には全く関係ないものであつたが、何人かの同級生が運営を含め

て協力してくれていた。その協力者の一人が岡田であつた。そんなこともあり、私は先生の教室に夕方になると繰り返し出入りしていたが、その年に国際婦人年世界会議が開かれこれに呼応して大学でも色々な行事をすることになっていた。先生は女性の地位向上にも関心が高く、その年には映画会を開いた。映画は熊井啓監督の制作で、高橋洋子さんが娼婦役で主演していた「サンダカン八番娼館望郷」という映画の上映会が企画されていて私も先生から参加を勧められた。当時から理不尽には人一倍関心が強かつたので、先生に誘われるままに会場に行つた。先生は当時医学部の教授でありながら、看護専門学校での運営を支援しておられたので、女子が大挙して座つていて男一人で、周囲と全くそぐわず、たじろいだのを覚えている。参加の感想のようなものを依頼されたので、慰

安婦のその後もボルネオの貧しい暮らしの映像が映画の随所に出てくるが、当時私が社会問題として注目していた水俣病の再認定問題で認定の対象になつていた水俣の漁村の雑魚だけの食事をしてた貧しい方々の姿と重なり不条理を感じたそんな感想を書いた。先生は私のつたない投稿原稿をお読み頂けたのかもしれないが、その後も時々時間を割いてくださり、当時医学部四年生の私に色々話してくださいました。当時水俣の貧しい暮らしが有機水銀の体内への蓄積につながつたことを学んでいたのも、水俣病関連で知り得たことを先生にお話しすると、テキスト以外の本を読むことをもっと推進するように励ましていただき、さらに視野をもっと広げるようにご示唆をいただいていた。また国際婦人年の運動のことにも関心があつたこともあり、「君は差別のない人だね」と、

言っていたことを思い出す。前島先生には学生の頃から自分の存在を知って下さっていた。私は入学時の医学研究者にという志とは違つて、大学病院で内科臨床に携わる臨床研究医としての道を歩き始めた。しかもマイナーで未開拓な領域を専攻したこともあり、自分が医療を研究するものとしての将来像は全く見えない状態であつたので、時々自分の今後についての相談のために先生のお部屋に伺っていた。

そんなある日、先生がご自身の過去の研究の歴史のようなことを話してくれたことがあつた。よほど私が自信を無くして、周囲からの攻撃で打ちひしがれていた時だったのだと思う。先生は医専を卒業後、感染症が重要と考え小児科臨床を志した。しかし次々に感染症に捕まり主治医として担当した子供たちが命を落としていく。そこで治療に当たっていた

が、このまま小児科で治療が続けると、自分はいつか墮落してしまふと感じたと教えてくれた。つまり治療するものは治療されるものよりいつも立場は優位になる。一生懸命やつた治療に対して治療されるものから感謝されるのは嬉しいが、だんだん感謝されることに慣れていく自分が怖いと思い、小児科臨床から離れ伝染病研究所の研究に専念することにした。当時女性の研究者は数少なく、まして開業医養成所の発展形であつた医専を卒業した者が細菌研究をするというのは暴挙であつたようである。しかし伝染病の研究はいわば底辺で間接的に人のためになる仕事をするので、私には直接ヒトに施す臨床よりよいと思つたと回想し教えてくれた。先生は自分のおごり墮落の予兆を自己評価し、進路を基礎医学に変えた。「底辺で人のためになるように」という頂いた言葉は今

も私の耳に残っている。つまり自分のための研究ではなく、与えるためのものであることが前提となつている。私は医者になつて人のために医療としての作業をしていくことが大切だと思つた。人のためになる行為は研究によつてだけなされるわけではない。それを体験的に教えてくださったのも先生であつた。先生からお聞きした話しを二人にもつと聞いてほしくなつた。

お料理は焼き物になつていた。鯛の西京漬けのようなものである。香ばしい。箸をつけながら、前島先生からお聞きした趣旨がなるべくストーリートに伝わるように思い出しながら話し続けた。本当に残念なことであるが、先生にはもうお会し、お話しを伺うことはできない。だが、今でも私がいれば先生が励まして下さる。その時には岡田も間島も既に大学にはい

なかったで、先生のお話しについて二人は直接には聞いていないと思つたので、ここで話すことにした。

「今日は最初間島から先原君への研究に伴ういじめの話から始まつて、研究は誰のためにまた何のためにやるのかということが話題になっていると思う。さっきの前島先生の話しをした時にもしたと思うが、人のためになるようにという意識が前面に出ているかどうかということではないかと思つて、岡田の話も聞いていた。医者がする他者への支援の方法は研究だけではない。先生からお聞きした医者がするヒトのためにする支援スタイルの鏡のように思っている話を伝えたいと思う。先生ご自身が医学医療以外の方法で社会に貢献していくプロセスの話した。」と私は話しはじめた。二人はうなずいて黙って聞いてくれている。

先生の青年期には日本は戦争ばか

りしていた。先生が小学校に入学したのは一九三四年であつたので満州事変の時である。中学校の入学が一九四〇年であるが、太平洋戦争はその年に始まつた。太平洋戦争はじまると女子といえども動員され、ほとんど勉強はしていない。高校になつても動員され学校で工場をやつていた。そういう状況で一九四五年に敗戦になつた。

一九四七年に新しい憲法ができた。男女平等が二十四条に書かれている。新憲法が成立する以前には女性は大学には入れなかつた。また家長制度があり、女性には相続ができない。また選挙権もない。さらに夫のある女性の不倫は、姦通罪という罪まであつた。そういうものが新憲法で排除され、ようやく男女同権の考え方が生まれた。それから一九八六年になつて憲法だけでは十分ではないということで男女雇用機会均等法ができた。

さらに一九九九年に男女共同参画社会基本法ができた。今だけを見ると男女の問題は不条理だと感じるものが少なくないかも知れないが、変化がある度に平等に近づくように進んでいる。

学内に保育園を作つた時は、強い反対があつた。理事の女性は先生一人であつたが、残りの理事はみな設置に反対した。彼女は発言した。「この中に赤ちゃんを産んで育てた人がありますか。それをしてない人にどうして保育園が必要ないと言えますか」と説得し、保育園ができることになつた。建物は工事現場に作るようなプレハブではあつたが、兎に角学内に保育園が完成した。経常の赤字採算について問題にはなつたが、医学部主導で運営は現在まで続いている。加えて保育は預かるだけでなく、教育をしてもらわなければいけないと思ひ幼児の教育の場ともなつていつ

た。さらにプレハブから恒久的な構造の新保育園の園舎ができた。そろそろ十年になる。プレハブの頃から加えると五十年弱の学内での保育園運営の歴史を刻んだことになる。これらの子育ての支援が成就することによって、子育てをとうの昔に終えてしまった先生が利得を得ることはない。加えて彼女は看護の教育のシステムを改革した。看護師のレベルを上げようと考える看護専門学校から短大へさらには大学へと格上げにしようとするが、またまた賛成のない大反対状態であった。でも味方の多い仕事は自分がやる必要はないと思っていたので、賛成のない状態は一向に堪えなかった。強い賛意を示してくれたのは学外からの例えば聖路加の故日野原重明先生たちが大学設置を積極的に支援してくれた。さらに看護教育界全体の潮流も追い風となり、大学の理事会もようやく設

置を認めた。今では大学院まで設置されるまでになった。看護学部さらに大学院設置によっても、先生は医師であるわけで、看護教育の充実によつて先生もしくは先生の周辺が利得を得ることはない。利他のとりくみの意味は私が学び取った大事な点である。

晩年、彼女は重症心身障害児の施設を運営している。旧女子医専の先輩が自分たちのお金を集めてつくった施設である。国は土地を提供するということと事業協力してくれた。それで、施設が建った。彼女の先輩たちが、次々と理事長となり運営していった。ある時医専の先輩に「あとは頼むわよ」と言われた。先輩がそこまですてきた仕事を放り出すわけにはいかず、「万一のことがあれば一生懸命やります」と言った。そんな経緯で前の理事長が急死された後彼女が引き受けることになった。我々医師

はいろいろな形で社会還元ができるが利他を前提によりよい方法を皆で模索していつてほしい。と結んだ。

「最後前島先生は重症心身障害児の施設運営までやられたのだね。医学や医療が内包する男女共同の遅れや周辺の看護教育や障害への支援などまだまだなんだね。知らなかったよ。」と間島が言った。

「先生は僕らより二十歳以上上だと思うので、これから僕らの還暦定年後の二十年間位のプロセスの指針だと思う。すごい使命感そして溢れるバイタリティーが先生の中にあふれているよ。」と岡田が感心した。

「次に話そうと思った先生の研究の歴史は先生から聞いたことあるかなあ？」と僕が尋ねた。岡田は「多分君と一緒にのときにお聞きしたように思う。もしかしたら君から聞いた話しを自分が聞いたように思っているだけかもしれない。」と知っていると思

うという意思を伝えてくれた。私が話しはじめるかどうか逡巡している、今度は間島に促された。「その話し聞きたい。」私はこの二人の思いやりは本当にありがたいと感じた。私はきつと大好きなこの話しは以前間島にも聞いてもらったことがあるに違いない。私は二人に乘せられた形で話しはじめた。前島先生のことをもつと好きになった話しを話しはじめた。

伝染病研究所での研究はそれぞれに菌種が決まれ、組織的に研究が網羅されるように所長や研究部長がデザインしてくれていた。当時抗生物質がまだ実用化していなかったのに、毒性の強い細菌であった赤痢菌やジフテリア菌などが猛威を振るっていたので、それらの菌の研究が主だった。しかし網羅的に特性を知る必要がある、例えばヒトにとって弱毒であっても研究対象としては重

要で広く研究する意味は十分にあった。彼女は緑膿菌という弱毒性のグラム陰性桿菌の研究担当となった。弱毒菌感染症ではヒトは死なない。

研究者が実験で扱っている菌に感染して死亡することはないとはいえない。若い女性でもあり、危ない強毒菌は適切でないという上層部からの配慮があつたように思う。彼女は社会への還元がすぐにも見える強毒菌の研究ではなかったことには少しは残念な思いはあつたが、与えられた弱毒菌の特性の抽出がすぐに治療貢献しなくてもよいと自分に言い聞かせ、丁寧に研究を進めていった。彼女の弱毒菌の研究は順調に進んでいき、菌の特性が掴まれていった。その後並行してペニシリンから広域スペクトラムを持つセファロスポリンが登場し、かつて強毒と考えられていた細菌は次々と克服されていった。皮肉にも強毒菌が広域スペクトラムの

抗生物質によつて殺菌された後、弱毒とされていた緑膿菌が菌交代症を起し、弱毒菌による敗血症となり、命を閉ざしてしまう原因となつていった。弱毒菌は強毒菌が圧倒的であつた時には致死的原因とはなりえなかつた。その後ステージが変わり、底辺で行つていた地道な研究行為が弱毒菌による敗血症の治療として大きな社会貢献となつていった。研究とはそういうもので、手を付けて直ぐに結果が使われるようなものは研究としてはそれほどのものでないことが多い。むしろ時代の変わりその次の場面で使えるようになっていくような、そんなものを研究対象として選んでいく方向性を持つことが大切である。「すぐに研究が評価されなくても腐ることはない。もつと広い視野をもつて、続けなさい」と私を励ましてくれた。前島先生のこれらの姿勢は、私が還暦を過ぎ定年までの

カウントダウンの中での大学での改革的取り組みへの励みになっている。

岡田も間島も私の長い話を黙って聞いてくれていた。三人でいつものように楽しんでた食事会も、デザートになっていた。栗きんとときとアイスクリームだった。飲み物は何になさいますかと聞かれ、仲居さんの紹介にコーヒーが入っていたので、追加の料金が発生するのかと間島君が質問してくれた。聞きたいところであるが、なかなかとつきには口ごもってしまうところではあるが、彼の一言はありがたかった。追加の料金は百円だったので、三人で食後のコーヒーをお願いした。なにやら岡田がゴソゴソ荷物を広げていた。二人にお土産を買ってきてくれた。包み紙から高木屋の草団子のようだ。岡田は寅さんの大ファンで、しばしば柴又を訪れている。数年前の三人会は岡田の案内で柴又の川甚で

コース料理を頂いたこともある。その時も確かお団子のおみやげを頂いたように思う。三人合わせて年齢二百歳にならんとしているこの会がまた開けるように再会を誓って、三人それぞれ違った方向へと帰宅の途についた。

肥満の背景とは

鹿児島 武志

メタボ健診(特定健診・特定保健指導)が2008年に施行されて久しい。肥満予防により生活習慣病が減少し、2兆円の予算削減になるという厚労省の目算もあるが健診費用の方が高くつくという意見もある。

肥満とはBMIが基準となるが25.0以上を過体重30.0以上を肥満とよぶが、世界的な肥満人口は6億

4100万人(2014年)、日本では男性の約3割、女性の約2割が肥満とある。

かなり以前のことだが、雑誌の誌上で、食事は1日2食で十分という細川元首相の談話が掲載されていた。塩と亜麻仁油の選択にはことのほか神経を使い、午前11時と午後5時の2回、自作のサラダ料理や蕎麦を食べればそれで十分だそうで、夜の会合の晩餐メニューの希望を問われても返事に困ることもあるという。週刊誌などで時折、陶芸や旅行記のエッセイを書かれているが悠々自適の身であるので逆に健康管理が必要なのかもしれない。

少食主義か、なるほど。1日2食に減食したら身がもたないのではと思うが、職業柄、時には午前の外来診療でモタモタしていると昼食が午後2時以降に持ち込むこともある。「無理して食べなくてもいいや」というイ

ンブットを脳と胃袋に覚えさせれば良いのか？イライラする様子が目に見えるように大勢の待ち患者がいる時には、気がせくあまり、ハイになっているので、その時には確かに腹はすかないようだ。と思うと脳と胃袋の関係を妙に納得した。

書店の棚には相変わらずA級B級を問わず、グルメの紹介本並べてあるが、最近では摂食してひたすら健康志向を目指す本がベストバイとして堂々の売り上げを誇っている。試しに手に取ってみると、お勧めの食事法とは朝抜きとか昼抜きとか様々のレシピがあるが、極めつけは朝昼抜きで夜にサラダ主体の料理を食すというベジタリアンを地でゆく、ハウツーものが目を引いた。丁寧なことに一食主義のおかげで結果として著者の脳年齢、血管年齢、骨年齢などが、実年齢よりはるかに下回り、極めて体調がよいという、いわば独善的

ともいえる解説がなされていた。過食をつつしみ体重を保持してゆくことが生活習慣病などの予防に大いに役立つという事実は否定できないが、反面ストレスが超すると却って過食にはしる傾向があるという現象もありうる。

個人レベルでの肥満が万病の元だけというならまだしも、国家レベルで肥満が社会問題となると世界の食料事情にも将来的に重大な食糧危機を招くことになる。以前ロンドン大学の研究チームがまとめた論文によると途上国の人口爆発により引き起こされる食糧危機については従来から懸念されているが、先進国に蔓延する肥満も同様に深刻な危機に陥るという。

体重が増えれば食料から摂取するエネルギーもより必要となる。食糧1トンは北米大陸に住む大人の約12人分に相当するが、アジア地域の

大人に換算すれば役17人分に相当する。そして世界の人口の5%でしかない北米の人々の肥満が34%であるのに対して人口の55%を占めるアジア地域の肥満割合は13%に留まるという。

肥満に関する知見では脂肪センサーGPR120受容体が食事性肥満のひとつの原因遺伝子で、脂肪の消費と蓄積を制御する司令塔であることが判明し、アミノ酸に変異のあるGPR120遺伝子をもつヒトの場合、高脂肪食を摂取すると正常人よりも1.6倍肥満になりやすいことが分かった。

アフリカ大陸の貧困が食糧危機を招くというが、リーマンブラザーズ不況以後貧富の格差が増加しているアメリカ国内でも失業したり、就職できない貧困層の肥満が問題視されている。低収入所得者層の家庭に配布されるフードスタンプ、あるいは

学校での給食も内容は、安価で高カロリーのジャンクフードの占める割合が多すぎるとされて久しい。肥満人口が増加する根底には貧困問題が横たわっていて、犯罪行為の温床にもなりかねないので単なる健康問題では済まされない。

近年の地球のさらなる温暖化も一因であろうが、気象の変動により限られた水源、適切な環境などが、限られた耕作面積の中で、穀物の収穫量に大きな影響を与える。卑近な例ではオーストラリアの干ばつで肉牛が育たず、アメリカ肉牛の輸入が急増したが、セーフガード（輸入制限）を日本政府が発動すると、関税が50%になり、必ずや、トランプ政権下では日米経済摩擦の要因となるだろう。また食糧危機は必需量と裏腹の関係にあり、供給量は、貧困を惹起するその国の経済状況にも影響されることになる。貧困といっても、暴政による

貧困ゆえに地球上で飢餓に苦しむ人々もいれば、大国ゆえに逆に肥満に苦しむ人々もいる。ズボンやスカートのきつくなったといって日々悩む程度の方が、日常的には案外幸せなのかもしれない。立ち読みする本屋では、決まってグルメ本を手にとる私にはやはり1日2食は無理のようだ。

熱海の花火大会と

勤務あれこれ

浜名 新

私立の慢性期型の療養型病院に勤務して、早いもので10数年になる。入職時の医師契約は1年間で、研究日は平日1日、勤務日は5日間で、勤務内容として、入院・外来診療・肢体不自由診断書の作成など。契約更改

は1年毎で、経営者である理事長が、契約更改に応じなければ、契約更新は出来ない。

年を重ねると休みが待遠しくなる。まして、後期高齢者になると、休日は多いのがあるがたい。そこで、昨年度平日1日と土曜日の第1・3日を研究日とする契約に、平成29年6月から、平日1日、土曜日の第1・3日、月曜日の第2、4日を研究日とする契約に、折り合いがついた。感謝！さて、勤務の内容として、入院患者40名を担当、外来勤務半コマ、早番1回、遅番1回、年1回の休日診療当番1回。

療養型病院に入院する患者は、生き延びた関係で、多くの基礎疾患を有す。神経難病関連、ガン関連、脳卒中・脳挫傷後遺症関連、肺炎後、心不全・呼吸不全関連、老化・認知症関連その他。

担当患者41名の摂食方法の内訳

は、経管栄養24名(胃ろう管10名、経鼻胃管14名)、経口摂食17名で、経口摂食不十分の3名は点滴による補液500mlを併用している。

最近、食べられている人が食べられなくなれば、あえて経管栄養を勧めず、点滴併用で寿命を全うされてはどうかと勧めている。尊厳を損なうとは考えられず、容認される患者・家族が多い印象です。

一方、急性期病院に入院・治療を受けた場合、経口摂食が困難になると、医師から水分栄養保持の方法として、経管栄養、あるいは中心静脈栄養を勧められ、最終的に、栄養管を留置される頻度が多い。

ひとむかし、入職の頃、胃ろう孔が胃液の塩酸で溶けて、拡大する合併症に往生した。胃ろう菅の材質が不良だったのか、日常の管理が不備であったのか、はたまた、両者が作用したのか、実に悩ましかった。水分・栄

養保持のため、手足の静脈から補液、あるいは中心静脈から高カロリー輸液に変更して時間を稼ぎ、同時に経鼻胃管を留置して胃液を排出させようと試みもした。胃ろう孔の拡大は縮小せず、起死回生の方策が見つからなかった苦い思い出がある。

入院患者で腐心する病態は発熱で、感染症では誤嚥性肺炎と尿路感染が双璧で、原因菌として、グラム陰性桿菌の緑膿菌、大腸菌(ESBLタイプ)、グラム陽性球菌のMRSA菌が有名だが、培養で複数の細菌が検出されることが多い。抗生剤の量を多めに使用し、CRPやWBCの数値を目安に、早めに抗生剤を変更し、炎症値の改善を目指している。だが、食事を再開すると、いつの間にか発熱し、炎症の再燃に遭遇する。

今、盛況の医療関係のテレビ放映で、誤嚥性肺炎に関して、専門家の医師が、嚥下で口蓋の蓋(ふた)の開け

閉めに、サブスタンスPが関与するので、これを増やす食品を摂る機会を増やすようにしたら、とのアドバイスがあった。病院で出来るのは「パタカラ」などと、噛む筋肉、飲み込む筋肉の機能保持のため、大きな声で発声させる練習を、毎食、開始直前におこなっている。

胃ろう管、経鼻胃管を比較して、誤嚥性肺炎を発症する頻度は、あまり差異が無い印象です。

休日診療の勤務時間は9時—5時で、放射線技師・薬剤師・検査科技師も出勤・対応する。今年6月のとき、20名弱が外来受診した。30歳代の男性が腹痛で来院。待機中に腹全体に痛みが広がり(腹膜刺激症状)、炎症値は亢進し、腹部CTで太い虫垂が認められた。近くの自治体病院の外科に救急搬送して、緊急手術で救命された。2週間で治癒・退院された、とのコメントをいただき、大いに感

謝。

後期高齢者ともなれば、結婚当初の2人となり、互いの性格は頑固となり、些細な事柄で声が大きくなったりする。お互い、趣味には干渉しないようにして、わが道を行くのが長生きの秘訣かもしれない。

カミさん孝行として、亭主が担当しうるのは、皿洗い、風呂当番、洗面所の清掃、居間の掃除、坪庭の草花に保水することぐらいかな。

カミさんは、意外にも花火好きだ。湯宿を経営している、湯河原に本社をおくフォレストグループの湯めぐりスタンプを4つ取得すると、1泊タダで泊まれる、というおいしい仕掛けに、はまっている。なかでも、熱海、湯河原の温泉地の花火大会の見学が好きで、小生は専らお供。

もと杉並区の保養所であった湯河原の「杉菜」、群馬の「コニファーいわびつ」は、フォレストグループに経

営が委譲されて久しい。

8月3日、恒例の湯河原吉浜海岸での花火大会は、船から打ち上げるため、今年、台風の影響で、直前、中止となった。そこで、カミさんは3日宿泊予定の宿と交渉し、4日「水の香り」泊、元豊島区の保養所?・5日「万葉荘」泊に宿を変更、5日夜の熱海の花火大会用バスツアーに急遽参加したいと希望。キャンセル待ちが運よく成立。参加費1人、2500円也。

4日午前、小田原経由で湯河原に向かった。初めて「水の香り」に宿泊。結構でした。

8月5日午前、町立湯河原美術館を見学。平松礼二画伯の作品を鑑賞した。彼はパリのジヴェルニーにあるモネの自宅に通い、「モネの睡蓮」との関連で、日本の伝統美のきらびやかさを描き、素晴らしい作品に仕上げた。モネの睡蓮の株わけされた

子株が、庭の池に咲いていた。

5日夜、熱海の花火大会は午後8時20分から8時50分まで、5千発の花火で、期待が膨らむ。万葉荘から観光バスで7時10分に出発、40分熱海着、検問ゲートで入場券をちぎってもらい、おしり敷きマットを貰い、海側に面した階段の指定会場の席を確保。

お月様も現れ、雲も少なく晴れて、花火打ち上げ日よりでした。ウグイス嬢のアナウンスも心地よく響く。でも湿気はすごかったですね。会場の席は大勢の客で混雑。花火に備えてホテルのライトの光度は抑制気味。打ち上げ開始のカウントダウン。突堤の3箇所から、おのおの3本の斜め直線状の明るい花火が。いきなり打ち上げられ、度肝を抜かれました。

シュルシュルシュル、赤い一つ目小僧は、身軽にすると天空に駆

け上がり、パッと大輪に開いて、四方にきれいな花を咲かせ、最期にドカンと大音響が響き渡る。打ちあげ花火の醍醐味に違いない。雲も無く晴れて、花火の花が鮮明で見事でした。絶え間ない花火の競演でした。

花火玉の製作過程には、煙火師の工夫と挑戦があるようだ。

例年のごとく顧客から、親、あるいは妻に感謝して、特注の花火の贈り物が打ち上げられ、その感謝の気持ち、見習いたいものです。

最期が大空中ナイアガラ、これは打ちあげ会場から打ち上げるスターマインの空での競演でした。きれいな丸い見事な花が重なり合い、酔いしました。熱海の花火、万歳！

(29・8)

原稿募集のお知らせ

次号（冬季号）締め切り

平成29年11月24日（金）

次々号（春季号）も募集中

毎号、会員みなさまのご協力、誠にありがとうございます。

冬季号の原稿を募集します。新年号となります。ぜひこの機会にご投稿お待ちしております。データでのご投稿でしたら右記の締めきり以降でも大丈夫です。メールまたはFAXにてご連絡ください。

次回は年内に『文芸特集号』を発行予定です。購読をご希望の方は事務局までメールまたはFAXにてご連絡ください。一部五〇〇円を予定しています。

引き続き、会員の皆様のご支援、協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

※今号及びバックナンバーも一部五〇〇円にて追加購読も承っています。ご希望の方は事務局までお知らせください。

サイパン戦跡めぐり

協力 美濃部幸恵
美濃部欣平
英文資料訳

平櫛孝少佐 十字架の道行き

闇の向こうの真相は (3)

最終回



『私はいま、灰色の十字架の重みに堪えつつ、長い長い茨の道の余生を生きている。』

平櫛 孝(ひらぐし たかし)

1908年(明治四十一年) 広島市に生まれる。広島陸軍幼年学校、

陸軍士官学校、陸軍大学校卒、陸軍野戦砲学校、陸軍砲工(科字)学校

教官、陸軍省軍務局付、陸軍省(大本営)報道部員、第43師団参謀、

陸軍少佐 *最終階級陸軍中佐
サイパン戦に参加、1980年没

☆地獄谷への道

昭和19年6月29日

合同司令部は二つのグループが時差を待つて出発することになり、まず先発グループが日没後洞窟前に整列した。そのとたん、炸裂した艦砲の弾幕に包まれる事態となった。

29日の真夜中に艦砲射撃の間をぬって、若く元気のある平櫛参謀が南雲長官、斎藤師団長、司令部の第2移動集団の先頭案内人となり地獄谷へと移動していく様子が語られてい

る。

戦火にくすぶりつつける戦場を黒い影は一列縦隊で北へ。

「連隊旗手が持つ竿頭の菊花章の金色だけが、青白く月に輝いている。

米軍の着弾地帯をさけて、海岸に近い道を選んだので、4キロ以上の距離を行く。民間人や戦傷者を運ぶ担架の列も北へ北へと続いて行く。

ドンニ野戦病院の撤収後は何の処置も指示もあたえていない。参謀として責務にせめられて苦しい。

その担架の上の顔面三角巾で包まれ、目だけ出している戦傷者と呼びかけられる。師団輜重隊長で、最初の戦闘司令部から後退した時に二夜世話になりご馳走になった山本光男大尉であった。おたがいにかたく手ににぎりあったが現在の私には彼になにもしてやれない。無言のまま別れた」

*ドンニ野戦病院はマタンシャ

ドンニ―野戦病院



ドンニ―野戦病院は、島東海岸側の密林を下った巨大な岩場の谷底にありました。周囲は屹立した岩が円形状に谷底を囲んでおり薄暗くじっとりしています。洞窟の内部は、岩の隙間からわずかに光がさす程度ですが40～50 畳の広さがあります。この洞窟と谷底、周辺の密林に2000人以上の傷病兵がひしめいていました。サイパン戦末期1944年6月27日「歩行可能な者は最後の総攻撃へ」。重傷病者には自決用の手榴弾が配られ悲惨極まる野戦病院は閉鎖されたのです。

黒い口を開けているのが洞窟入り口です。



昭和19年6月30日

サイパン日本軍最後の司令部へ⑥

「月は東天高く昇って山肌を照らしていた。」

ガラパンの重油タンクの火災は天に届かんばかり、一塊の大きな積乱雲となっている。時々米軍の照明弾が地獄谷への道を

照らし出す。」

*サイパンの月 現在でも黒々と静まる山影の上に昇る月は、何

故か透き通るような青味を帯び、もの悲しい気配を漂わせています。日中はあんなに陽気にさんざめく南国のリゾート地ですのに。

から密林を約一キロ中に入り、峡谷の底までおりたところにありました。病院といってもすりばち型の岩場と大きな洞窟を利用したところ。島南部より撤退してきたその野戦病院には約2000名、3000名の重傷病兵がひしめいていたのです。

6月27日病院末期には動けない患者の上に、敵機の襲撃だけでなく艦砲弾も落ちてくるようになる。死者も続出し30日、歩行できる者は最後の突撃へ、重傷者には自決用の手榴弾が配られて悲惨なドンニ―野戦病院は閉鎖されたのです。

地獄谷（日本軍最後の陸海合同司令部）



マタンサ内陸部へジャングルを約1キロ入った峡谷が地獄谷。後方の山の谷間に分け入り進みます。



最後の司令部となった洞窟入り口。無数の弾痕が残る弾除けの鉄板がある。



コココーラ 周囲の樹林に分け入ると米軍野営地だったのかビン類や武器の残骸が散乱していました。日本兵や民間人は一滴の水を求めて苦しみました。が、米兵は戦場でコココーラも飲んでいました！

午前2時ごろ地獄谷の洞窟に着いた。

あまり多くの人が入れない洞窟で、大部分の者が入り口付近にはみだしたまま夜明けを待つ。しかし仮眠もつかの間、地獄谷の谷間に敵弾が炸裂する音響が響き、洞窟の20メートルほど先に着弾した。

兵士たちは私や他の参謀を飛び越え、踏みつけて洞窟の中に逃げ込んできた。

*このように書かれた最初の洞窟は、戦後度重なる台風や土砂崩れですでに埋もれており、現在の「最後の司令部」として戦史に残っている洞窟は100メートルほど山林

の急勾配を登った場所にあります。周囲にいくつかの洞窟があり、海軍、陸軍の将兵が分散し使用していたようです。

昭和19年7月1日 2日

地獄谷司令部⑥

この頃の米軍布陣 サイパン沖に

特設空母5、巡洋艦4、駆逐艦16、掃海艇15、輸送船大11、小19、病院船1、飛行艇29。

アスリート飛行場に米軍機が着陸。戦線後退をしてきたサイパン守備隊は、東海岸タロホホから西海岸タナバクを最後の戦線とする計画であった。しかしこの抵抗線の陣地構築指導から一時帰ってきた岡野参謀の中間報告は暗かったという。

『一本の円匙もなく、浅いタコツが陣地も鉄帽を使って手堀するほかなかった。しかもこのタコツボ陣地につく兵も指導官を失ってバラバラに退って来る兵だけで、順々に配置につかせ一巡してきてもうそこにはいない。日本の軍隊はボロボロの汚れた軍服を着た烏合の衆に過ぎない』

「しばらくして岡野は誰に言うでもなく、日本軍は負けだと叫んで再びタロホホの陣地構築指導のため、

谷間を駆け下りていった。

岡野を追うように、艦砲の地域射撃が地獄谷におおいかぶさった。

好漢岡野参謀、再び帰らず」

*「日本の軍隊はボロボロの汚れた軍服を着た烏合の衆に過ぎない」と悲痛なセリフを残した岡野参謀でありましたが、職業軍人ではなく、赤紙一枚で軍に徴集されたある上等兵の叫びも平櫛参謀は心にとどめ著書に掲載しています。

後藤志郎上等兵19歳。

「わたしは何のために戦い死なねばならないのか？」

將軍や参謀たちのように全体俯瞰図をもたぬまま、敵兵、敵戦車と激突するだけが兵の宿命である。

昭和19年3月。満19歳の現役兵と、くたびれ果てたような召集の老兵集団は、南の島サイパンに着いてすぐ陣地構築のために働いた。

丸腰同然の兵、重火器の数も少ない中隊。新聞、ラジオもなく戦局の急迫も中部太平洋の風雲急を上げる現実も身近にはなかった。

6月11日から米軍の凄まじい砲爆撃が連日続く。死は確実であった。

「死ぬ意義をどこに見出そうか。国のため、天皇のためか、国民兵役からいきなり召集され、正規の現役兵としての教育もうけていない私には何かこだわりがある。兵はみな孤独である。」

*1944年6月16日になると米軍の戦車隊が砲口をそろえてヒナシスの斜面を撃ちまくり登ってきたのです。

実弾射撃を一度もやったことのない兵たちが、タコ壺陣地に下半身をかくすだけでアメリカ軍と対峙せねばならなかった。

周囲みな戦友の死体の中で、6月

18 日名前さえ知らない4人の兵と取り残された後藤上等兵は「もう日本軍は崩壊したのだ」と思った時、「自分は意思をもった人間として生き延びる道を切り開くのだ」と決心したのです。そしてジャングルに踏み入り逃避行をはじめたのです。

昭和19年7月1日2日

七月一日。合同司令部を見下ろす位置にある222高地に米軍進出。地獄谷南部に米軍戦車が現れる。

七月二日。合同司令部の洞窟にもビュンビュン敵弾が飛び込むようになる。陸軍第三十一軍高級参謀伊藤盛逸大佐、中部太平洋艦隊参謀野間徹海軍中佐は砲弾の破片をうけ戦死。

決別の言葉 サイパン島守備兵にあたる訓示、命令

ついに高級参謀の作戦会議でサイパン島守備隊の最後の突撃事項が決

定された。平櫛少佐等若手参謀は作戦指導のため戦線に出る任務が多くこの決定には列席していないと述べています。

「決定内容」は以下

7月6日午前十時に南雲海軍中将、斉藤中将、井桁少将は自決し

7月7日午前三時を期し、日本軍は最後の突撃を実施する。

というものでした。

斉藤義次第43師団長の「決別の言葉」の中に

「軍は最後の一兵迄陣地を死守玉碎せむとす」

「暗号其の他の機密書類は遺憾なく処理せり」

そして一言「航空機の増産活躍を望みて止まず」と日本軍の敗因の一つであった近代戦に遅れていたことの苦言を呈し、最後に「皇軍の隆昌を祈りて聖寿の万歳を唱ふ」と結んでいます。

皇軍の軍人であり、敗軍の将となつた斉藤中将の万感の思いが「決別の言葉」から浮かびあがってまいります。

又海軍中将南雲忠一 陸軍中将斉藤義次の連名で

「サイパン島守備兵に与ふる訓示」が残された。

『サイパン島の皇軍将兵に告ぐ。』ではじまる。

簡潔な短文ながらブログ、ツイッター時代の現在のやり取りにない格調と、生と死の緊迫が読んでいて胸に迫ります。

内容一部抜粋『全在島の皇軍陸海空の皇軍将兵及軍属は克く協力一致、善戦敢闘、随所に皇軍の面目を發揮し^略然るに天の時を得ず。今や戦うに資材なく、攻むるに砲類ことごとく破壊し、戦友相次いで斃る。今や止まるも死、進むも死。今ここに米軍に一撃を加へ、太平洋の防波堤として

サイパン島に骨を埋めむとす。「生きて虜囚の辱をうけず」勇躍全力をつくして従容として悠久の大儀に生きるを喜びとすべし』

この訓示と決別の言葉をバナデルの海軍航空廠から瞻写版を取ってきて印刷し、地獄谷を通るすべての人に渡したと平櫛孝参謀は書いています。

昭和19年7月3日4日5日

七月三日。夕刻には合同司令部の前面高地に戦車数両、150名位の米兵が進出。戦車は地獄谷のタナバクからタロホホに通じる道を盲射しながら往復す。

七月四日。今日はアメリカの独立記念日だ。しかし関係なく、一層激しい戦闘になる。米軍戦車は地獄谷を蹂躪しはじめた。

各所で近接戦になる。
日本軍は一門一艇の重火器もなく、

全員手榴弾を持って、肉弾突撃の準備をした。自から進んで敵陣切り込みを志願する者も多かった。

太平洋の防波堤崩壊する

昭和19年7月6日 「いつもと同じように夜が明けた。」と平櫛参謀は書き出しています。

*サイパンの日の出は約6時40分前後と朝が明けるのは以外に遅く、日没は18時前後で早くも島は夜の帳につつまれてしまうのです。

日中は煌めく常夏の島ですが、夜の闇は長くて海原も周囲の山も黒々と静まり、私は日本から訪れる度に日が沈んでしまうと、何か重苦しい気持ちを抱いたものです。

最後の朝食は、管理部の骨折りで握り飯と力二缶、それに賀陽の宮から大賜された紋章入りの煙草が三人に一本添えられた。

平櫛孝が語る「二提督と二將軍最後の真実」とは

*サイパン守備隊の最高司令官の最期については戦後諸説がみられますが、これに対して平櫛少佐は「自分は最期に立ち会った者として断言できる」と以下のように述べています。

『中日新聞』『東京新聞』が連載した「烈日サイパン島」で七月六日南雲海軍中将と共に矢野海軍少将も自決し「四將軍自決」と記述しているが、六月二十五日に第43師団が合同司令部に合流した時には、海軍の提督は南雲海軍中将だけであつた。「これは確実である」と念を押しています。事実は南雲忠一海軍中将と斉藤義次陸軍中将、井桁敬治陸軍少将の「二提督と二將軍」であつたと断言しています。

アメリカ側の戦史家などもこの平

「サイパン戦跡めぐり」最終回にあたって



2009年4月から2017年8月まで8年間、玉砕の島サイパンを夫婦で綴ってまいりました。現地サイパンの戦跡には13回にわたり慰霊巡拝の旅をさせていただきました。この旅は私共の余生に一条の光となり、貴重な経験と深い思い出となりました。

最後に誌面をお借りし恐縮でございますが、掲載に当たりお骨折りいただきました「日本医家芸術クラブ」事務局様、並びにご活躍の会員の諸先生方に心より御礼申し上げます。

櫛説を引用しています。

これと同じく南雲海軍中将が最後の総攻撃に参加したとするある出版物や斉藤中将の遺体を運んで丁寧に葬ったとする米側の写真入り記事な

どは「すべて作為されたもの」と述べています。

さらに「烈日サイパン島」には軍旗消えると題して軍旗を三旗焼いたことになっているが、電信山から地獄

谷まで軍旗と行動を共にし、最後の二旗（歩兵百三十五、同百三十六連隊）の奉焼に立ち会ったのは、平櫛参謀自身であったから間違いであると書いております。

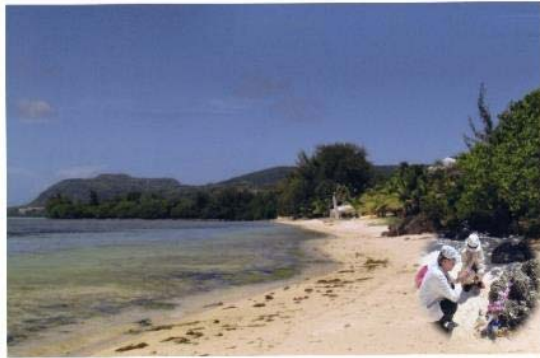
最後の玉砕総攻撃

昭和19年7月7日 マタンシヤに集合した残存兵約3000名（この中には軍属、邦人有志、傷病兵まで加わった）は午前三時三十分を期し、ワーツと喚声をあげて米軍に向かって突進していった。全員玉砕覚悟であつた。

* 日本軍は決してやぶれかぶれの突撃ではなく、タナバクのアメリカ軍前線基地を偵察隊が調べていたこと、突撃は前列に無傷で武装した兵士が4列にならび、一次、二次、3次と戦友の屍を乗り越えて突進してきたので米軍の前線が後退したこともあった。アメリカ軍も約400名が戦死した。（海軍史家イアン・トール）

しかし反撃はやがて沈黙し、タナバク海岸は日本兵の死体の山となつた。

タナバク海岸（日本軍玉砕の海岸）



1944年7月7日サイパン守備隊最後の総攻撃が決行され、およそ3000名が玉砕し死屍累々であつた海岸地帯。後方岩山がバンザイ・クリフ（マツビ岬）です。追い詰められた一般在留邦人の家族等が断崖から投身自決をして果てたのです。（1000～1300人と云われています）

生還 茨の道

* 目の前に火の玉が炸裂、爆風に吹き飛ばされ出血多量で意識を失い気がついた時は、アメリカ軍艦医務室のベッドに包帯を巻きつけ

られた状態でベッドにくくり付けられていた。という平櫛少佐はその後ハワイに收容された後に、本国に帰還された。

『サイパン日本軍参謀の中でただ一人生き恥をさらした』

『この罪深い軍人に恥多い余生を送らせることこそ神の罰か』

『自分の出来ることは、百匹のネコが一匹の子ネズミを食い殺した壮絶の極みであつた戦争の実態を書き残すことだ。もう世界のどこでも戦争は起こしてはならない。』

さらに世界の戦器は進化し第二次世界大戦以上に人類の惨劇が起こってしまうだろう。』

闇の向こう

最後に投降したと言われる時期と、同時期の平櫛少佐の行動を振り返ってみましょう。

昭和19年6月24日（1944年6月24日）に米軍の歩兵第27師団師団長ラルフ・スミス少将が解任更迭され、この事件と相前後して平櫛孝少佐は東海岸ラウラウの歩兵第27師団米軍基地へ一人で行って投降したとされています。

しかし著書「サイパン肉弾戦 玉砕から生還した参謀の証言」光人社はこの時期も陸軍43師団参謀として斉藤義次師団長等と行動を共にし、7月7日の日本軍最後の玉砕戦に参加、戦場で負傷、意識不明で米軍に捕われるまでを日を追って記述しています。

6月12日のアメリカ軍の空爆に始まり、15日には米軍サイパン上陸以後激しい攻撃に日本軍の戦闘司令部は転々と島北部へ移動後退していく過程でした。

新しい戦闘司令部もすぐ米軍に発見され、機銃掃射や砲爆撃で攻撃され、死傷者が血の海にうめき横たわり、平櫛少佐等も崩れ落ちてきた砂塵に埋まるなど、どろどろの有様を書いています。

タポーチヨ山や東海岸も激しい戦闘が行われていました。

その様な戦場を『一人で歩いて米

軍基地へ投降した』『真新しい軍服、ピカピカの軍靴で』と言われ書かれています。が女性の私には不自然な話しに思えてしまいます。

* 今日、私共が山中の戦跡を歩いても、靴には泥がこびりつき服も汗と汚れでよれよれになりました。それこそピカピカのホテルのロビーに帰って来た時は、いつも申し訳なくて身がちまりましたから。

* サイパン戦はあまりにも戦死者が多く、さらに生還出来た元日本兵は口を閉ざして語ろうとしなかった為、戦史が明るみに出るまで長い年月が過ぎました。地獄の混乱状態であつた戦場の記憶には、各々将兵の置かれた立場や戦況、遭遇により、違いも生じるのではないでしょう。個人の好悪の感情もある程度記憶の中に混在しているのでは。

たとえ公式文書に記録がなく確

証がなくとも、伝聞やうわさは一人歩きをし、拡散し生きつづける。

“何故お前だけが生き残ったのか、私の夫、私の息子、おれの戦友は死んだのに”

敗戦の軍人が生き残ることは『罪万死にあたいする』と責められるのでしょうか。

今度は言葉の武器をもって同胞が共に戦った同胞を傷つけ、貶める……。

人間の肉体だけでなく、心まで傷つけあう敗戦の荒野。

戦後七十二年……平櫛孝参謀の戦場の真実真相は、玉砕の島サイパンの地獄谷やタナバグ海岸だけが知っているのでしょうか。

ヨハネ黙示録第六章 十二節 日は荒き毛布のごとく黒く、月は前面血の如くなり。

おわり

注 平櫛 孝参謀の階級について

*サイパン戦時中の階級は陸軍少佐でしたので文中記載は平櫛 孝少佐といたしました。

*戦後一階級昇進し最終階級は平櫛 孝陸軍中佐です。

《参考文献》

サイパン肉弾戦

平櫛 孝 光人社

大本営報道部

平櫛 孝 光人社

烈日サイパン島

中日新聞 東京新聞出版局

提督角田覚治の沈黙

横森直行 光人社

ガタルカナルから

サイパン陥落まで (下)

イアン・トール

文芸春秋

新約聖書 改訳、文語体
ウィキペディア wikipedia
日本聖書協会



戦前の南洋諸島の日本委任統治領と支庁所在地 *資料-Wikipedia より引用

1919年(大正8年)11月7日~1945年(昭和20年)8月15日

●マリアナ群島
サイパン島 サイパン支庁

●西カロリン群島 パラオ諸島
コロール島 パラオ支庁

●西カロリン群島
ヤップ島 ヤップ支庁

●東カロリン群島 トラック諸島
夏島 トラック支庁

●東カロリン群島
ボナベ島 ボナベ支庁

●マーシャル群島
ヤルット島 ヤルット支庁



南洋興発ガラパン出張所 サイパン



日本統治時代のサイパンの街

交通 *当時こんなに沢山の船が日本と南洋の島々を行き来していました！驚きました。

内地群島間航路 日本郵船担当 サイパン丸、パラオ丸 山城丸

- ・西廻線(横浜-父島-サイパン-テニアン-ロターヤップ-パラオ-ダバオ-マドナ)
- ・東廻線(横浜-父島-サイパン-トラック-ボナベ-サイ-ヤルット)
- ・サイパン線(横浜-父島-サイパン)

群島内離島間航路 南洋汽船・南洋貿易が担当

- ・マリアナ群島線
- ・ヤップ・パラオ離島線
- ・ボナベ離島線
- ・マーシャル群島線

環礁内航路-運輸組合・個人が担当(南洋庁が補助金を支給し維持)

- ・パラオ各線
- ・トラック各線
- ・ボナベ各線
- ・ヤップ各線

*大日本航空による航空路線も整備されつつあった。



家康が造った

駿府の城下町

山崎 嘉弘

西暦二〇一五年、家康が亡くなった地、静岡市（駿府）では徳川家康没後四〇〇年行事としていろいろな催しが開催されました。

この年の七月三十一日の静岡新聞朝刊『大自在』欄に「駿府銀座発祥の地」の石碑の記事が載っていました。慶長十二年（一六〇七年）京の伏見にあった銀貨鑄造所を駿府両替町に移し「銀座役所」を開設したことに由来し、慶長十七年（一六二二年）駿府の銀座は江戸に移され現在の東京銀座のルーツは静岡にある、としています。

静岡市の小さな店から銀座に進出し、今や全国で十一店舗を展

開するタルトで有名なあのキルフエボンのルーツも静岡ですが、静岡人は奥ゆかしく大きな声で話しません。

今から六五〇年程前、室町時代に今川範圍が駿河国守護に任ぜられました。九代義元の時代に全盛期を迎え、徳川家康（幼名、松平竹千代）は人質として十九歳まで十二年間、駿府で生活しており、臨濟寺住職であり今川義元の軍師でもある太原雪斎に師事、種々の教えを受け、家康の人間形成の上で非常に重要な時期を駿府で過ごしています。

永禄十一年（一五六八年）十代氏真は武田信玄に攻められ駿府の町は焼

き払われます。さらに天正十年（一五八二年）、徳川家康が駿府の武田勢を攻め、中世駿府の町は



【図1-1】

安部川が三筋に分かれていた流れ。妙見下より薩摩土手が築かれる。

ほぼ壊滅状態となりました。

現在、静岡市の繁華街となつて
いる呉服町、両替町、紺屋町など
の町並みは、戦国時代の今川氏の
時のものではありません。徳川家
康が大御所として駿府に移つて
きてからです。

徳川家康は天正十年（一五八二
年）三月武田家滅亡後、信長より
駿河国を与えられ、ここで三河、
遠江、駿河をあわせ三ヶ国の大名
となりました。この年の六月二日
本能寺の変があり、信長が所領し
ていた甲斐、信濃に混乱に乗り、
甲斐、信濃制圧に乗り出し五ヶ国
の領主となりました。

それまで浜松城を居城として
いましたが拠点を東へ移したほ
うがよいと考え、天正十三年（一
五八五年）七月駿府城の築城に着
手、翌年の十二月に駿府城に移つ

ています。この時

期の駿府城は後
の慶長期駿府城
とは異なるので、
天正期駿府城と
よばれています。

家康はここで五
年間過ごしてい
ます。

天正十八年（一
五九〇年）小田原
攻めがあり七月
北条市が滅亡、八
月には家康は秀

吉から関東移封を命ぜられまし
た。家康としては天正十三年から
五年の歳月をかけてやっとでき
上がったばかりの駿府城から離
れるのはさぞつらかったと思ひ
ます。

秀吉が死に慶長五年（一六〇〇
年）関ヶ原の戦いの後、天下の実



【図1-2】古地図の薩摩土手

権をにぎった家康は慶長八年（一
六〇三年）征夷大將軍に任ぜられ
江戸に幕府を開きました。しかし
慶長十年（一六〇五年）四月には
將軍職を秀忠にゆずり大御所と
なりました。そして隠居地を駿府
と決めました。

慶長十年（一六〇五年）家康は

駿府城を新しく拡張、築城し、安倍川の流れを西に変える治水事業や駿府の町割りにとりかかり、現在の静岡市街地の原型ができました。

静岡市街地の町割りとその町名の多くが家康時代から続いていることを知らない静岡人も多いのです。

慶長十年（一六〇五年）四月、家康は征夷大将軍の座を秀忠にゆずると、しばらく秀忠を直接指導していましたが駿府を隠居地と定め、駿府城をさらに大きくするための築城をはじめました。それまでの駿府には安倍川の流れが三筋も町中に流れ込んでいました。ひとつは城の北に位置する浅間山のおもとを回り込むような流れで北川と呼ばれていました。さらに町中を駿府城のすぐ西側、現在の市役所前を南に向

かう流れで稲川と呼んでいました。その他、浅間山から南西に向かう流れがありました。そのため今川時代の城下町は三つのブロックに分かれていました。（図1-1）（図1-2）



【写真 1-1】 妙見下から薩摩土手が築かれている。
手前は県道 27 号線（井川湖御幸線）



【写真 1-2】 薩摩土手から妙見下をみる

家康は分断された町をひとつの大きな町にするため安倍川の流れを変える計画に着手したのです。安倍川の流れを西に大きく迂回させるため浅間山の西から

南西に向かって堤防を築かなければなりません。薩摩藩が中心となって堤防が築かれました。『薩摩土手、籠上妙見下より有渡中野新田に至るの大堤あり。高三間、數十丈間、馬踏六間、長式千四百余間と駿府旧図にみえたり。この堤は慶長年中安倍川の水流行のところに流されるために築く所なりと云う。・・・』と江戸時代に書かれた地誌『修訂駿河国新風土記』にみられます。この堤防は現在でもみられ、その大きさを実感することができます。(写真1-1)(写真1-2)

最も東寄りの堤防はその後取り壊され、現在では『薩摩通り』という名の道路となっています。

(図1-1)

薩摩土手は高さ三メートル、基底部十四メートル、馬踏と呼ばれる上部平坦部は幅四・五メートル



【図2】駿府の都市計画。城から南東、東、東北、北、北西方面は上級武士、西、南西方面は下級武士の居住区となっていた。城の南西の基盤目状の部分は町方の居住区。町方の西側は寺町区域。

もあります。これは土塁の役目をしたはずで、大阪方が出陣した場合の備えとしたと考えられています。大阪にはまだ淀君と秀頼がいた時代で緊張感漂う時代だったと思われる。



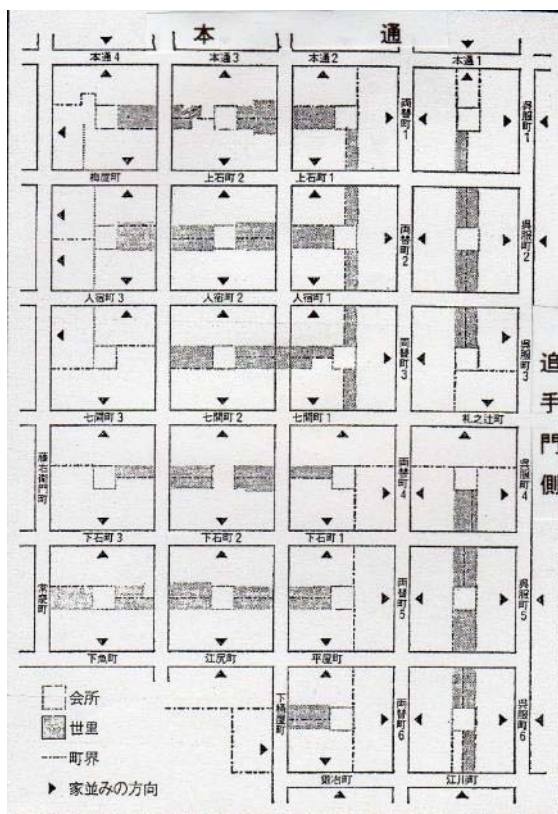
【写真2】駿府の全景のジオラマ（駿府城公園、巽櫓内）

安倍川の流れが変えられ、藁科川と合流し現在の流れとなりました。こうして駿府城の西側には広い土地ができ、本格的な町造りが開始されたのです。

戦国時代が終わり徳川幕藩体

制となり土農工商が確立されました。駿府の城下町は土農工商を真つ先に意識して造られた城下町、しかも天下人家康公の町として設計された城下町でした。江戸、名古屋、仙台よりも早く完成し、その後の近世江戸時代の城下町計画の基本となりました。土農工商が雑多に入り混じった町ではなく、武士と庶民が別々の区域に住む原則が確立されました。武家文化を意識した町造りが『駿府』ということができます。(図2,写真2)

駿府城下町は城の周辺(南東、東北、北西方面)には城を守るため上級武士の居住区となっており、他の一画(番町地域)は下級武士の居住区となっていました。町の西側には寺町がおかれました(現在の常磐公園あたり)。有事の際(豊臣方との戦い)、兵士が



【図3】基盤目状の町割り。世里、会所は町割りの時にできた『残所』であり、町人が共用した。

駐屯できるスペースを確保するためのものでした。

『駿府九六か町』といわれた町方は一片が約九〇メートル(五〇間)の基盤目状のブロックに整然と区画され、きちんとした都市計

画によって成り立ったものです。現在の中心市街(繁華街)は基本的には当初と大きく変わっていません。

家康にとって必要な商工業界が職種ごとに城下町にスパー

スを与えられ商売がゆるされま
した。中心街は呉服町、両替町、
紺屋町、七間町など家康時代から
の町名が数多く残っています。

(図3)

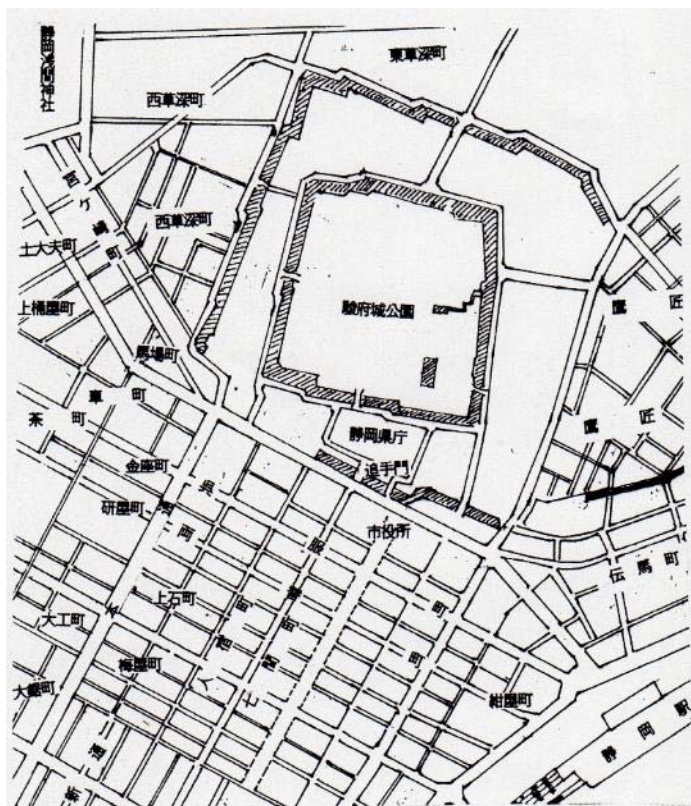
駿府城下町の町名につけくわ
えられた「丁目」の表示は、南北
方向では必ず『本通り』を起点に
して『本通り』から遠ざかるにし
たがって「一・二・三・丁目」と
なっています。駿府城から西に広
がる基盤目状の城下町は東西方
向に追手門から遠ざかるにした
がって「一・二・三・丁目」とな
っています。このため町中の位置
はどこからでもすぐにわかる仕
組みになっています。これは現在
でも同様の表記となっています。

(図3)

当時の東海道は現在の伝馬町
通りから城の南東側にある基盤
目状の地区をジグザグに縫って

通り、現在の新通り（本通りの南
側を平行して走る）を通り、安倍
川に向かっていました。「新通り」

は家康が新しく造った道路で、そ
れ以前は「本通り」が東海道にな
っていました。(図2)



【図4】現在の繁華街と町名

駿府城下町の構成を大雑把に分けると以下ようになります。

(1) 武家区 草深、鷹匠など

(2) 商業区 茶町、呉服町、魚町など

(3) 宿場区 伝馬町(交通・運輸)

(4) 金融区 両替町、銀座、金座

(5) 寺社区 寺町、西寺町など

(6) その他 猿屋町、川越町、毛皮町など

注：鷹匠は武家屋敷敷地であり駿府九六町には数えません。

駿府城下町の特徴のひとつに道路が広がったことが知られています。長崎のオランダ商館医ケンペルは一六九一年に江戸に下つており、その時書いた旅行記に駿府の情景を表しています。「この町には防備設備や門もなく、そ

うえ非常に道幅が広く、平らで交差した町筋には、たくさん的小売店と並んで、商品を置いただけの低い家々が立ち並ぶ」とのべています。(江戸参府旅行記)

当時の他の都市、金沢、岡崎、宇都宮などと比べても広い通りが多かったことがわかっています。

慶長十八年(一六一三年)イギリス国王使節ジョン・セーリス日本旅行記には『八月三十日駿府に着いた。駿府の都市は郊外いっさい含んだロンドンの大きさほど充分ある。手工業者は都市の郊外及び周辺に住んでいる。なぜなら都市の内部に住む上流の者が、職人が発するガタガタの騒音に悩まされないようにするためである。』と言っています。

これは士農工商制度のため武士と庶民が別区域居住している

ことを知らなかったための記述とも考えられます。

駿府城下町九六町については諸書ありますが、どの文献も九六町の名が全て一致しているものはひとつもありません。ここでは『駿府広益』に載せられた町名を記載します。

当時の町名が現在まで残っているのは三十町です。丁目の数は当時と現在では異なりますが、町名の数だけでもこれだけ残っています。

※当時(家康時代)の町名が今も残っている

↓現在の町名

(1) 札の辻町↓呉服町・両替町

※(2) 七間町一〜三

※(5) 呉服町一〜六

(11) 江川町↓御幸町・紺屋町

※(12) 両替町一〜六

(18) 藤右衛門町↓七間町
 (19) 下石町一〇三
 ↓七軒町・両替町
 (22) 下魚町↓常磐町
 (23) 江尻町↓昭和町
 (24) 平屋町↓常磐町
 (25) 下桶屋町↓昭和町
 (26) 鍛冶町↓昭和町
 ※(27) 人宿町一〇三
 ※(30) 上石町一〇二
 ※(32) 梅屋町
 (33) 寺町一〇四
 ↓本通五・常磐町
 ※(37) 新通町一〇七
 (44) 新通川越町↓川越町
 (45) 四つ足町↓中町
 ※(46) 本通町一〇九
 ※(55) 茶町一〇二
 (57) 本通川越町↓本通十
 (58) 堤川越町↓本通西町
 ※(59) 上大工町
 ※(60) 上桶屋町

※(61) 大鋸町
 (62) 西寺町↓大工町・大鋸町
 ※(63) 研屋町
 ※(64) 土大夫町
 ※(65) 柚木町
 ※(66) 馬場町
 ※(67) 車町
 ※(68) 宮ヶ崎町
 (69) 御器屋町↓西草深町
 ※(70) 上草深町
 ※(71) 下草深町
 ※(72) 材木町
 ※(73) 安倍町
 ※(74) 安西町一〇五
 ※(79) 紺屋町
 (80) 新谷町↓御幸町
 ※(81) 横内町
 (82) 横内田町↓横内町
 ※(83) 上伝馬町
 ※(84) 下伝馬町
 (85) 花陽院門前町
 ↓伝馬町・日吉町

※(86) 八幡町
 (87) 鋳物師町
 ↓伝馬町・日吉町
 (88) 御台所町↓日吉町
 ※(89) 上横田町
 ※(90) 下横田町
 (91) 常慶町↓常磐町二
 (92) 院内町↓横田町
 (93) 猿屋町↓横田町
 (94) 上魚町南、北
 ↓金座町・常磐町
 (95) 毛皮町↓新通
 (96) 安倍川町↓駒形五
 注：草深町は現在、西草深町・東
 草深町になっています。

家康は一五四二年に誕生して
 一六一六年に亡くなるまで三度、
 駿府で過ごしました。
 [1] 人質時代(八歳〜十九歳)
 一五四九年〜一五六〇年ま
 での約十二年間

駿府城跡天守台発掘調査

調査の目的

駿府城は、徳川家康公が全国の大名に工事の負担をさせる天下普請で築いた雄大な城でしたが、江戸時代の間に度重なる災害等により徐々に縮小していきました。明治時代に入ると廃城となり、残っていた天守台も明治 29 年に崩されて以降、その姿は100年以上見ることはできませんでした。



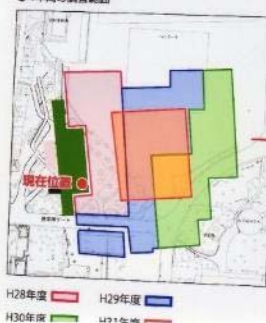
今回の発掘調査は、天守台の整備方針決定に向けて、天守台石垣の残存状況や大きさなど正確なデータを得るために4年間にわたって実施します。

また、普段は安全上の問題等から立入禁止の現場を駿府城や調査について皆さんに知っていただくため、一般公開しています。巨大な天守台が徐々に姿を現していく様子を見られる機会は今だけ！毎日景色が変わる現場で「家康公が愛したまち静岡」の魅力を体感ください。

調査範囲

H28年度からH30年度は天守台とそれを囲む本丸堀（内堀）を、そしてH31年度は今川時代の遺構を調査していきます。

●4年間の調査範囲



●現在の駿府城



【図5】駿府城跡天守台発掘調査



【写真3】駿府城で発掘された天守台の石垣

〔2〕五か国領主時代（四十四歳～四十九歳）

一五八六年～一五九一年までの五年間

〔3〕大御所時代（六十六歳～七十五歳）

一六〇七年～一六一六年死去までの九年間

七十五年の人生の中で約二十五年、すなわち三分の一を駿府で過ごしています。
家康がなぜ隠居地に駿府を選

んだのかについては家康の証言が残っています。『廓山和尚供養記』で江戸増上寺の観智国師が駿府城の落成祝いで家康と対談した時、「なぜ駿府を選んだのですか？」という質問に答えて、

(1) 我幼年の時、此処に住みしたれば、自ら故郷の感あり、忘るべからず。幼児見聞せし者の、成長せしを見るは、なかなか愉快なる事あるものなり。

(2) 富士山高く北に秀でて、山脈其の左右に列なれば、冬暖にして老を養うに最も便なり。

(3) 米穀の味、他国に冠絶せり。

(4) 南西に大井、安倍の瀑流あり、北東に箱根山・富士山の険あり、要害最も堅固なり。

(5) 幕府に参勤の大小名等、来て吾を見るに便ありて、毫も道を枉(ま)ぐるの劳あるなし、且つ、此国は地勢開け、景色佳なれば、

富士を不二となし、南山の寿を養うに足る。これ我が居を此に定る所以なり。

現在、静岡市では駿府城天守台の発掘調査を平成二十八年八月より開始しています。家康時代の天守台の石垣はかなり大きく、基底部で約六十八メートルもあります。現在発掘されている石垣の高さは約五・六メートルあります。当時の石垣(天守台の高さ)は九間(約十九メートル)あったと言われています。

見学ゾーンも設けられ天守台発掘現場を間近に見られる良い機会です。また、一般の方向け体験発掘が、平成二十九年六月より始まっています。(図5)(写真3)

〈問い合わせ先〉

静岡市観光交流文化局

歴史文化課

Tel 054(221) 1085
駿府城エリア活性化係

実施日当日連絡先

Tel 天守台発掘調査現場事務所
054(255) 5866

〈参考文献〉

〔一〕 駿府の大御所・徳川家康

小和田哲男 著(静新新書)

〔二〕 江戸時代の駿府 新考

若尾俊平 著(静岡谷島屋)

〔三〕 戦国静岡の城と武将と合戦と

小和田哲男 著(静岡新聞社)

〔四〕 駿府の城下町

若尾俊平 著(静岡新聞社)

その他

医芸俳壇



静岡 岩 本 漂 人

戸袋にムクの巢のある空き家かな
アオサギの一声あれば天を見る
カイツブリ一羽潜れば次々と
七月の大河カルガモもてあます
赤富士に飛び込んで行くホシガラス

東京 福 神 規 子

山菜蕒の実のくれなゐも真田邸
秋惜しむ良寛詩碑に会ひてより
藩校に文武の訓へ新松子
杉戸絵の笹は薄墨庵の秋
秋口のすこし無口でゐたいとき

東京 福 富 清 子

瓢棚くぐり人語と夕風と
初蟬を捉へて嬉し老いが耳
子規球場のフェンスに沿ふや秋彼岸
親娘して彼岸の花野に遊びませ
先導は螢方舟ありとせば



医芸柳壇



群馬 豊 泉 清

ペンと紙灯下で親しむ候となり
負けチーム善戦健闘と称えられ
デパ地下の試食の梯子で腹一杯
記憶は無い記録も隠せば無いことに
カケとモリお品書きにないそば屋さん

医芸歌壇



ぬえ

東京 小松 安彦

擬宝珠のうすむらさきの花を見て思ふ五月の紫の薔薇
黒揚羽青筋揚羽公園に飛ばば網もつ少年の追ふ

子供らにアガメムノンほどのやうな教育せしや数学か詩か
楽劇の幕切れに泣く声を聞くつらき別れをせし人ならむ
女神へのブーイングなど許さじと鶴に對ひて叫ぶブラボー

秋 明

茨城 羽生 藤 伍

祭り夜の笛に浮かれて庭に出れば木犀もぎせの香がたちこめいたり
緑なす庭の向いに真白なる秋明菊がひねもす揺れる
水道の水を放てばわが池の緋鯉ら泳ぎ素速くなりぬ
北海道地球岬の碧い海に真白く高い展望台あり
五いつ度たも入院したるわが友がランドゴルフで優勝したり

熊本追詠

東京 林 宏 匡

鉢植なみの牡丹紅白薄紅うすべにと咲き盛る日も余震止まざりき

大地震なみの被害に続く高温に耐へつつ居らむ熊本の民

白川のほとりに鴨と遊びたる初夏ひとの一日は追憶のなか

火の国の地震なみを鎮むる術もなく祈るほかなき英智とは何

大地震の被害復興未だしに再び襲ふ酷暑に豪雨

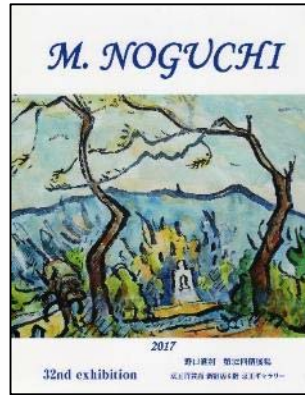
追悼・日野原先生 東京 横田 英夫

大いなる目標一つ失せにけり終生現役日野原先生

世の為になるなら診療続けよとその言やよし吾も続けん
朝食に何召されしかと思ひ居り吾も高齢折折の朝

医家芸術の祝いの席に連なりて次の短歌を贈りしことも
選びたる己が仕事を一筋に努力重ねて今日の清しさ

野口眞利絵画展



個展を記念して発行された画集

【画集内 『終わりになき戦い』より】

《前略》この1年間は、私にとつて最大級の『終わりになき戦い』であつたかもしれない。『体力も実力も、もうこれまでで』。ついに『矢折れ刀尽きた戦い』を挑み続けた1年であつたように思います。《中略》

最終的にどこまで行けるだろうか？ 来年は傘寿になります。

新たな夢を求めて、ボヘミアンの

如く、情熱の続く限り、この世界に挑戦するしかない。 野口眞利

個展を訪れて

白矢 勝一

個展の開催おめでとうございます。美術部でご活躍されている野口眞利先生の絵画展が、昨年に続き新宿の京王百貨店で、平成29年8月31

日〜9月6日まで開催されました。多くの方が来場されていて、野口先生の絵画に興味深くご覧になっていました。

京王ギャラリーでの個展は今年で2回目、個展自体は通算32回目だそうで、益々、絵に勢いが感じられ野口先生らしい作品の数々が展示されていました。

今後の益々のご活躍を楽しみにしております。



透視像



山田 遼

この欄に寄稿するのは初めてなので、思い出話を綴ってみます。

医家芸術クラブへ入会したのは、昭和五十一年頃でした。紹介してくれたのは、近所に開業していた耳鼻科の石井末之助先生です。

私は当時、能楽に入れ込んでいて、前の年には、澁谷松涛の観世能楽堂で「羽衣」のシテを勤めたりしていました。

その体験談をある雑誌に書いたのを、石井さんが読んで「これは、もう一步踏みこめば短編小説になるよ」と批評してくれました。

それがきっかけで、暫く休んでいた創作活動を復活させる気になり、

石井さんが、それなら同人誌に参加してみたらと、医家芸術の文芸部ともう一つ高円寺にあった純文学系の結社の二つを紹介してくれたのです。

石井さんは以前、芥川賞にノミネートされたことがあり、北杜夫と受賞を争ったという経歴の持ち主で、その頃は立原正秋と共に、「犀」という雑誌を主宰していました。本業は声帯や発声が専門で、音楽関係の患者さんが多かったようです。長唄の師匠にとっても面白い人がいるので自分でも習うことにした、よかったら一緒にどうかと誘われ、それから松永派長唄の稽古に通ったりもしました。

石井さんはすでに故人で、医家芸術の文芸部も随分さびしくなりました。

かつては、高橋有恒、中谷富次郎、森迫健一など達意の書き手が揃い、特集号には加賀乙彦、なだいなだ、渡

辺淳一などの医系作家との座談会が掲載され、何かにつけて道玄坂の椎津編集長の医院に集まり、百軒店の飲み屋や円山町の料亭へくり出した頃が懐かしく思い出されます。

懐古談はこのあたりで切り上げますが、今の若い世代には心情面でのゆとりが足りないように見受けられ、医家芸術クラブの存在がもつと注目され活用されるべきではないかと考えるものです。

編集後記



秋季号と云うにはギリギリの季節になつて参りました。この後は文芸特集号を発行予定です。投稿者以外の会員の方で購入をご希望の方は事務局までメール又はFAXにてご連絡ください。次号は新年号となります。よろしくお願いいたします。

(ES)